Canon

Satera MF4680

# かんたん送信ガイド

## 設定から使い方まで



## SEND Lite 機能

Scan to ファイルサーバ機能

Scan to E-Mail 機能

## Scan to USB 機能

JPN

# 商標および著作権について

## 商標について

Canon、Canon ロゴおよび Satera はキヤノン株式会社の商標です。
Adobe、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

## 著作権について

Copyright© 2007 Canon Inc. All rights reserved.
キヤノン株式会社の事前の書面による承諾を得ることなしに、いかなる形式または手段（電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動、またはその他の形式／手段を含む）をもっても、本書の全部または一部を、複製、転用、複写、検索システムへの記録、任意の言語やコンピュータ言語への変換などをすることはできません。

## 免責事項

本書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
キヤノン株式会社は、ここに定める場合を除き、市場性、商品性、特定使用目的の適合性、または特許権の非侵害性に対する保証を含め、明示的または暗示的にかかわらず本書に関していかなる種類の保証を負うものではありません。キヤノン株式会社は、直接的、間接的、または結果的に生じたいかなる自然の損害、あるいは本書をご利用になったことにより生じたいかなる損害または費用についても、責任を負うものではありません。

# はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本製品は、スキャンした文書をパソコンに保存したり、電子メールに添付して送信したりする、便利な機能を備えており、これらの機能を総称して「SEND Lite」と呼んでいます。
SEND Lite 機能は、本製品をネットワーク環境に接続し、パソコン側の共有フォルダの設定や本体側のネットワーク項目など、複数の項目を設定することで、はじめて利用できるようになります。

本書では、この SEND Lite 機能を利用するための設定について、設定の流れを順序立てて解説するとともに、「各項目にどんな情報を設定すればよいのか」をできるだけわかりやすくまとめています。
設定に必要な情報を書き留めておく「チェックシート」を巻末に用意していますので、ぜひこちらもお役立てください。

また、本書では、スキャンした文書を本製品に接続した USB メモリに保存し、USB メモリを経由して手軽にパソコン側に取り込める、「Scan to USB」機能についても解説しています。

SEND Lite 機能や Scan to USB 機能を使用する際は、ぜひ本書をご活用ください。

# 目次

**はじめに** ........................................ **1**

**目次** ........................................ **2**

**SEND Lite/Scan to USB 機能とは** ........................................ **4**

SEND Lite 機能とは ........................................ 4

Scan to ファイルサーバ機能 ........................................ 4

Scan to E-Mail 機能 ........................................ 4

Scan to USB 機能とは ........................................ 5

**SEND Lite 機能が使えるようになるまで** ........................................ **6**

**ネットワーク環境を確認しよう** ........................................ **7**

「本書で想定するネットワーク環境について」........................................ 7

**設定前に必要な情報を確認しよう** ........................................ **9**

Scan to ファイルサーバ機能に必要な OS を確認する ........................................ 9

Scan to E-Mail 機能に必要な情報を確認する ........................................ 10

電子メールアカウントを確認する ........................................ 11

**ネットワークケーブルを接続しよう** ........................................ **14**

**IP アドレスを設定しよう** ........................................ **15**

IP アドレスの設定を確認する ........................................ 15

**リモート UI を使おう** ........................................ **18**

リモート UI を使用するには ........................................ 18

リモート UI の起動方法 ........................................ 19

**Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう** ........................................ **21**

コンピュータ名と共有フォルダ設定に必要な機能を確認する ........................................ 22

コンピュータ名を確認する ........................................ 22

共有フォルダ設定に必要な機能を確認する ........................................ 24

共有フォルダを設定する ......28
アクセス制限をしない共有フォルダを設定する ......30
アクセス制限をする共有フォルダを設定する ......37
詳細なアクセス許可について ......55
ファイルサーバ送信機能を設定する ......57
宛先を登録する（ファイルサーバ） ......63
宛先の登録内容を表示／修正するには ......67
登録した宛先を削除するには ......69
ファイルサーバへ送信する ......70
受信したファクスを取引先別にファイルサーバに保存する ......74

**Scan to E-Mail 機能を使ってみよう ...... 76**
電子メールの送信機能を設定する ......77
宛先を登録する（電子メールアドレス） ......83
宛先の登録内容を表示／修正するには ......87
登録した宛先を削除するには ......89
電子メールを送信する ......90
電子メールの受信を確認するには ......94
電子メールを受信するには ......95

**Scan to USB 機能を使ってみよう ...... 97**
Scan to USB 機能を使用する前に ......97
USB メモリに文書を保存する ......97

**困ったときには ...... 101**
ネットワークに接続できない ...... 101
リモート UI を起動できない ...... 101
電子メールを送信したが、送信先で受信できない ...... 101
電子メールの設定を忘れてしまった ...... 101
本製品のディスプレイにエラーメッセージが表示された ...... 102
共有フォルダにファイルを保存できない ...... 102
エラー送信レポートがプリントされた ...... 108

**索引 ...... 116**

**チェックシート ...... 118**

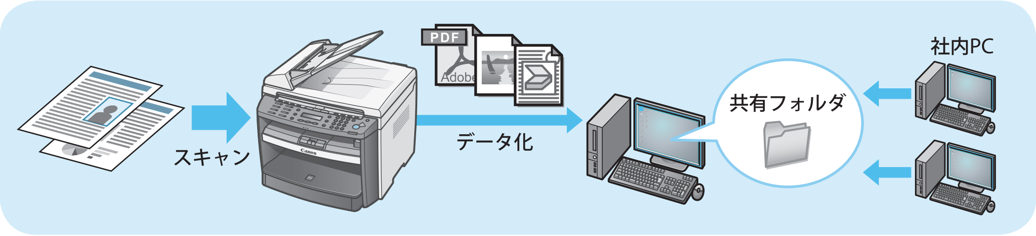
# SEND Lite/ Scan to USB 機能とは

## SEND Lite 機能とは

以下に説明する 2 つの機能を総称して、「SEND Lite」機能と呼びます。

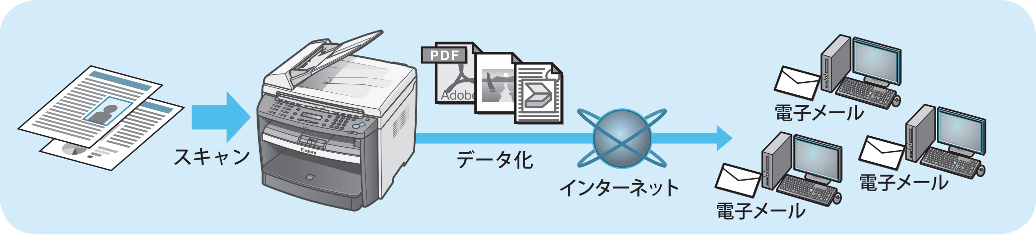
### Scan to ファイルサーバ機能

スキャンした文書を、ネットワーク上の共有フォルダに保存する機能です。
見積書など定期的に発生する文書をデータとしてバックアップしたいときや、プロジェクトに関する情報をスタッフで共有したいときなどに便利な機能です。Scan to ファイルサーバ機能の設定から使用までの流れについては、「SEND Lite 機能が使えるようになるまで」（→ P.6）を参照してください。



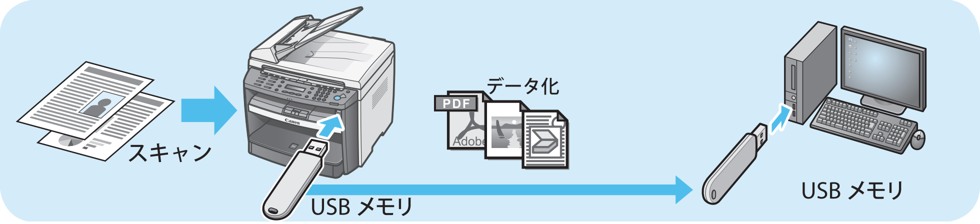

### Scan to E-Mail 機能

パソコンを使わずに、スキャンした文書を電子メールに添付して、本製品から送信する機能です。あらかじめ相手先の電子メールアドレスを登録しておけば、簡単な操作で電子メールに添付して送信できます。
急いで資料を取引先に送信しなければならないときや、社内のスタッフにデータとして送りたい紙文書があるときなどに便利な機能です。Scan to E-Mail 機能の設定から使用までの流れについては、「SEND Lite 機能が使えるようになるまで」（→ P.6）を参照してください。



# Scan to USB 機能とは

**スキャンした文書を USB メモリに保存する機能です。**
**スキャンした文書は、パソコンを介さずに直接 USB メモリに保存できます。そのため、会議や打ち合わせの資料をデータ化して持ち運びたいときなどに便利な機能です。**
**Scan to USB 機能の使用に、ネットワークの設定は必要ありません。使用方法については、「Scan to USB 機能を使ってみよう」（→ P.97）を参照してください。**



# SEND Lite 機能が使えるようになるまで



**SEND Lite 機能が使用できるようになるには、いくつかの手順が必要です。以下に設定完了までの流れをまとめましたので、確認しておきましょう。**

Scan to ファイルサーバ機能を使いたい

Scan to E-Mail 機能を使いたい

↓

**ネットワーク環境の確認（→ P.7）**

本書で前提としているネットワーク環境について確認します。

↓

**Scan to ファイルサーバ機能に必要な OS の確認（→ P.9）**

スキャンした文書を保存するパソコンの OS を確認します。

**Scan to E-Mail 機能に必要な情報の確認（→ P.10）**

電子メールアカウントなどの情報を確認します。

↓

**ネットワークケーブルの接続（→ P.14）**

本製品をネットワーク環境に接続します。

↓

**IP アドレスの設定と確認（→ P.15）**

IP アドレスが正しく設定されているかどうかを確認します。

↓

**リモート UI の起動方法の確認（→ P.18）**

本製品の設定を行うための「リモート UI」の起動方法を確認します。

↓

**Scan to ファイルサーバ機能の設定と使用（→ P.21）**

Scan to ファイルサーバ機能を使用するための設定を行い、実際に使用してみましょう。

**Scan to E-Mail 機能の設定と使用（→ P.76）**

Scan to E-Mail 機能を使用するための設定を行い、実際に使用してみましょう。

メモ

リモート UI とは、Internet Explorer などのウェブブラウザから、本製品の各種設定をする機能です。リモート UI を使用すると、本製品の操作パネルを操作するより、簡単に素早く設定することができます。

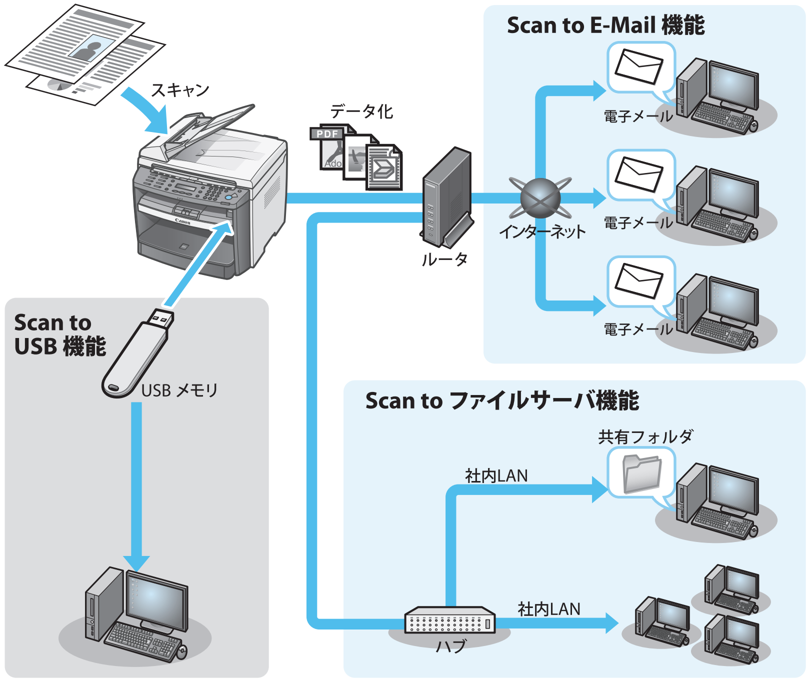
# ネットワーク環境を確認しよう

## 「本書で想定するネットワーク環境について」

**本書では、SEND Lite 機能を利用するネットワーク環境として、以下を前提としています。**

- 他のパソコンで、イントラネットまたはインターネットに接続して通信している。
- 本製品を接続するルータ、ハブなどがある。

**以下は本製品のネットワーク構成例です。**




**本製品は、ネットワーク環境での利用に必要な情報を、DHCP を使用して自動取得するように初期設定されているため、IP アドレスなどを設定する必要はありません。**
**IP アドレスを固定で使用する場合は、ネットワーク管理者から IP アドレスなどの情報を取得してください。**

**DHCP とは**

パソコンからインターネットに接続するために必要な IP アドレスなどの情報を、自動的に割り当てるための通信プロトコルです。DHCP を使用すると、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に設定することができます。
P.7 のネットワーク構成例では、ルータが DHCP サーバとなり、本製品や LAN 内のパソコンに、IP アドレスなどの情報が自動的に設定されていることを想定しています。

**メモ**

DHCP で本製品に IP アドレスを自動設定している場合、本製品やルータ（DHCP サーバ）を再起動すると、本製品の IP アドレスが変わってしまうことがあります。その場合は、再起動後に IP アドレスを確認しなおすか、または、DHCP 環境下でも特定の IP アドレスを固定できる「手動割り当て」機能や「固定割り当て」機能など（ルータのメーカによって機能名は異なります）を使用して、再起動後も IP アドレスが変わらないようあらかじめ設定しておくことをおすすめします。

**ネットワーク環境を確認したら、「設定前に必要な情報を確認しよう」（→ P.9）に進んでください。**

# 設定前に必要な情報を確認しよう

**実際に SEND Lite 機能の設定をはじめる前に、必要な情報がそろっているかを確認しておきましょう。**

## Scan to ファイルサーバ機能に必要な OS を確認する

**スキャンした文書をファイルとして保存するには、以下の OS のいずれかがインストールされたパソコンが必要です。**

- Microsoft Windows 98/98SE 日本語版
- Microsoft Windows Me 日本語版
- Microsoft Windows 2000 Server ServicePack4 以降日本語版
- Microsoft Windows 2000 Professional ServicePack4 以降日本語版
- Microsoft Windows XP Professional 日本語版
- Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版
- Microsoft Windows Server 2003 日本語版
- Microsoft Windows Vista 日本語版

メモ

本書では、上記対応 OS のうち、Windows XP Professional 日本語版 /Windows XP Home Edition 日本語版と Windows Vista 日本語版を取り上げて、共有フォルダの設定方法を解説しています。

**Scan to ファイルサーバ機能に必要な OS を確認したら、「ネットワークケーブルを接続しよう」(→ P.14)に進んでください。**

# Scan to E-Mail 機能に必要な情報を確認する

**Scan to E-Mail 機能を使って、本製品からスキャンした文書を送信するだけなら、現在使用している電子メールアカウントをそのまま本製品に設定してもかまいません。**
**この場合、設定には以下の情報が必要になります。**

- SMTP サーバアドレス： 電子メールを送信する際に使用するサーバアドレスです。
- 認証方式： 以下の 2 つの認証方式をサポートしています。
  （インターネットプロバイダによっては、認証が必要ない場合もあります。）
  - SMTP 認証
    SMTP サーバでユーザ名とパスワードを確認したあと、電子メールを送信する認証方式です。
  - POP before SMTP
    一度 POP サーバにアクセスし、POP アドレスと POP パスワードを確認してから電子メールを送信する認証方式です。プロバイダがこの認証方式を採用している場合は、電子メール送信機能の設定に加えて、電子メール受信機能の設定が必要になります。電子メール受信機能の設定については「電子メールを受信するには」（→ P.95）を参照してください。

メモ

現在使用している電子メールアカウントを本製品に設定すると、ふだん使っている電子メールソフトではなく、本製品が電子メールを受信してしまうことがあります。そのため、本製品の電子メール受信機能を使用する場合は、現在使用している電子メールアカウントとは別に、本製品用の電子メールアカウントを設定する必要があります。電子メール受信機能の設定については「電子メールを受信するには」（→ P.95）を参照してください。

**SMTP サーバとは**
電子メールを送信するためのサーバです。
パソコンの電子メールソフトから送られた電子メールは、いったん SMTP サーバに集められます。

**POP サーバとは**
電子メールを受信するためのサーバです。
電子メールを受信するときは、電子メールソフトを使って POP サーバに接続し、そこから自分宛の電子メールを取り出します。
プロバイダによっては、POP サーバと SMTP サーバは同じことがあります。

## 電子メールアカウントを確認する

現在使用している電子メールアカウントを本製品に設定する場合、設定に必要な情報は、ふだん使っている電子メールソフトで確認できます。
ここでは、Outlook Express 6.x（Windows XP に標準搭載されている電子メールソフト）を例に、電子メールアカウントの確認手順を説明します。

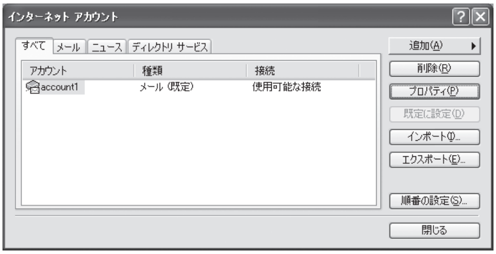
**メモ**

Windows メール（Windows Vista に標準搭載されている電子メールソフト）でも、同様の手順で電子メールアカウントを確認できます。

### Outlook Express 6.x の場合

**1.** Outlook Express 6.x を起動します。

**2.** ［ツール］メニューの［アカウント］を選択して、「インターネットアカウント」画面を表示します。

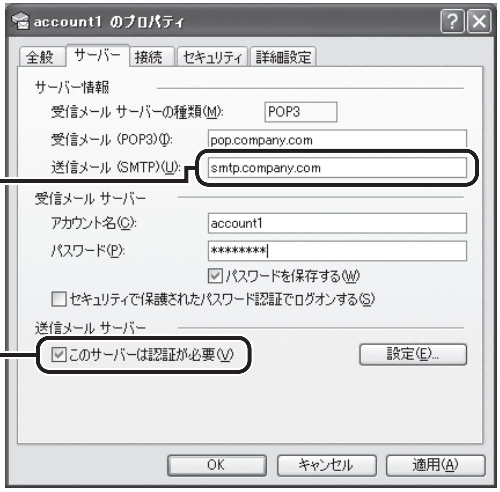



**3.** ［メール］タブをクリックします。

**4.** 使用中のアカウントを選択し、［プロパティ］ボタンをクリックして、［＜アカウント名＞のプロパティ］画面を表示します。

**5.** ［サーバー］タブをクリックします。

**6.** ［送信メール（SMTP）］に入力されている SMTP サーバ名を確認します。




**メモ**

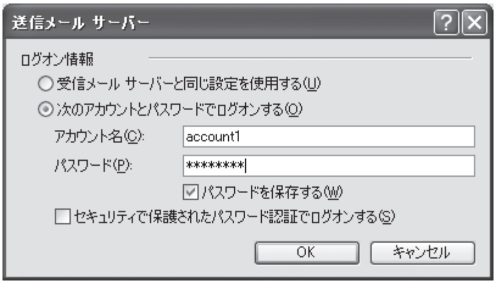
- POP before SMTP の場合や認証の必要がない場合は手順 9 に進んでください。
- SMTP 認証の場合は手順 7 に進んでください。

**チェック**

ここで確認した情報は、Scan to E-Mail 機能の設定に必要です。
忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）に必要な情報をメモしておきましょう。

**7.** ［送信メールサーバー］の［設定］ボタンをクリックして、［送信メールサーバー］画面を表示します。

**8.** ［アカウント名］（SMTP サーバのユーザ名）を確認します。




**メモ**

- 入力したパスワードは通常「***」と表示されるため、画面上では確認ができません。入力したパスワードは、プロバイダから発行された設定通知書などで確認してください。
- 契約しているプロバイダが、認証方式に POP before SMTP を採用している場合は、電子メール受信機能の設定情報も必要になります。電子メール受信機能の設定については「電子メールを受信するには」（→ P.95）を参照してください。

**チェック**

ここで確認した情報は、Scan to E-Mail 機能の設定に必要です。
忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）に必要な情報をメモしておきましょう。

**9.** 確認が終了したら、［キャンセル］ボタンをクリックして、［送信メールサーバー］画面を閉じます。

**10.** ［キャンセル］ボタンをクリックして、［<アカウント名>のプロパティ］画面を閉じます。

**11.** ［閉じる］ボタンをクリックして、［インターネットアカウント］画面を閉じます。

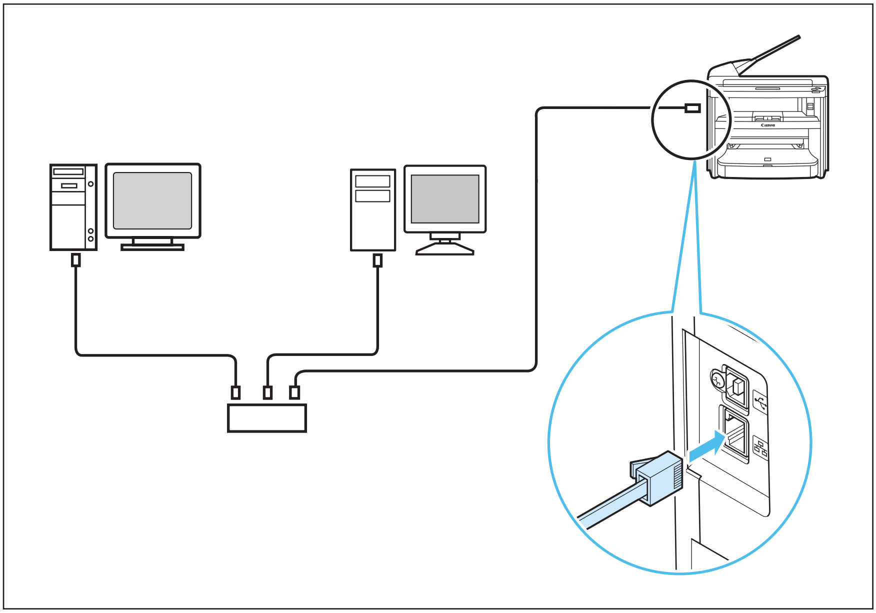
**Scan to E-Mail 機能に必要な情報を確認したら、「ネットワークケーブルを接続しよう」（→ P.14）に進んでください。**

設定前に必要な情報を確認しよう

# ネットワークケーブルを接続しよう

**P.13 までを読んで、設定の流れや必要な情報を把握したら、実際に設定を始めましょう。最初は、ネットワーク環境への接続です。**
**以下の手順で、ネットワークケーブルを本製品に接続してください。**

**1.** 本製品背面の 10Base-T/100Base-TX ポートに、LAN ケーブル（カテゴリ 5 対応のツイストペアケーブル）の一方を接続します。ケーブルのもう一方を、ルータまたはハブに接続します。



**2.** 本製品側面の主電源スイッチの［I］を押して電源を入れます。

**以上で、ネットワークケーブルの接続が完了しました。**

**次に「IP アドレスを設定しよう」（→ P.15）に進んでください。**

# IP アドレスを設定しよう

**本製品をネットワークに接続したら、次は IP アドレスを設定しましょう。本製品に IP アドレスを設定することで、ネットワーク上のパソコンと通信できるようになります。**
**IP アドレスは、自動または手動で設定できますが、本書では、DHCP（→ P.8）で IP アドレスが自動設定されるネットワーク環境を前提にしています。本製品の初期設定では、DHCP で IP アドレスが自動取得されるようになっているため、ネットワークケーブルを接続してしばらく待つだけで、IP アドレスの設定が完了します。**
**本製品に IP アドレスが正しく設定されているかどうか、以下の手順にしたがって確認してください。**

メモ

固定で IP アドレスを割り当てているネットワークに本製品を接続する場合は、本製品の IP アドレスを手動で設定する必要があります。設定方法については、*スタートアップガイド「IP アドレス取得設定」*を参照してください。

## IP アドレスの設定を確認する

**以下の手順で、IP アドレスが正しく設定されているかどうかを確認してください。**

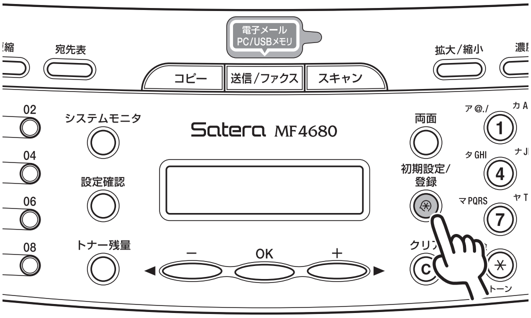
メモ

- 部門 ID 管理やユーザ ID 管理を行っている場合は、部門 ID やユーザ ID の入力を要求されることがあります。詳細は、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 8 章システム管理設定」*を参照してください。
- IP アドレスの確認は、本製品の起動後、1 分以上待ってから行ってください。

**1.** ［初期設定／登録］を押します。

**メモ**

本製品がスリープモードの状態になっている場合、LCD ディスプレイには何も表示されず、［節電］キーがグリーンに点灯しています。その場合、［節電］キーを押し、スリープモードから復帰させてください。




**2.** ［◄−］または［+►］を押して<システム　カンリ　セッテイ>を選択し、［OK］を押します。

```
メニュー
11. システム カンリ セッテイ
```

**3.** ［◄−］または［+►］を押して<ネットワーク　セッテイ>を選択し、［OK］を押します。

```
システム カンリ セッテイ
 5. ネットワーク セッテイ
```

**4.** ［◄−］または［+►］を押して< IP アドレス　カクニン>を選択し、［OK］を押します。

```
ネットワーク セッテイ
 6. IPアト゛レス カクニン
```

**5.** **［◄−］または［+►］を押して<IP アドレス>、<サブネット　マスク>または<ゲートウェイアドレス>を選択し、［OK］を押します。**

正しく設定されている場合は、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが表示されます。

```
IPｱﾄﾞﾚｽ ｶｸﾆﾝ
 1.IP ｱﾄﾞﾚｽ
```

**メモ**

DHCP で本製品に IP アドレスを自動設定している場合、本製品やルータ（DHCP サーバ）を再起動すると、本製品の IP アドレスが変わってしまうことがあります。その場合は、再起動後に IP アドレスを確認しなおすか、または、DHCP 環境下でも特定の IP アドレスを固定できる「手動割り当て」機能や「固定割り当て」機能など（ルータのメーカによって機能名は異なります）を使用して、再起動後も IP アドレスが変わらないようあらかじめ設定しておくことをおすすめします。

**チェック**

ここで確認した IP アドレスはリモート UI の起動時に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）に IP アドレスをメモしておきましょう。

**6.** **［ストップ／リセット］を押して待受画面に戻ります。**

**● IP アドレスが表示されない場合**

手順 5 で IP アドレスが表示されない場合は、IP アドレスの設定が完了していません。この場合、まず、ネットワークケーブルが正しく接続されているかどうか確認し、続いてルータが DHCP で IP アドレスを割り当てるように設定されているかを確認します。
もし、物理的な接続やルータの設定に問題がない場合は、いったん本製品の主電源スイッチを切ります。10 秒後に主電源スイッチを入れなおしたあと、約 1 分待ってから、もう一度 IP アドレスを確認してください。
これらをすべて確認しても、まだ IP アドレスが表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

**次に「リモート UI を使おう」（→ P.18）に進んでください。**

# リモート UI を使おう

**リモート UI を利用すると、Internet Explorer などのウェブブラウザから、ネットワーク経由で本製品に関するさまざまな設定が行えます。**
**本書では、本製品の電子メールの設定や、スキャンした文書の送信先となる宛先の設定などを、リモート UI による設定で説明しているため、ここでリモート UI の基本操作を覚えておきましょう。**


- ファイルサーバ送信機能の設定（→ P.57）
- 宛先（ファイルサーバ）の登録（→ P.63）
- 電子メール送信機能の設定（→ P.77）
- 宛先の登録（電子メールアドレス）（→ P.83）


## リモート UI を使用するには

**リモート UI を使用して、ネットワーク経由で本製品を設定するには、パソコン側に以下の OS およびウェブブラウザが必要です。**

- OS

・Microsoft Windows 98/98SE
・Microsoft Windows Me
・Microsoft Windows 2000 Professional
・Microsoft Windows XP
・Microsoft Windows Vista

- ウェブブラウザ

・Microsoft Internet Explorer 5.01 ServicePack1 以降
・Netscape Communicator/Navigator 6.0 以降、ただし Netscape Communicator 6 は除く

# リモート UI の起動方法

**リモート UI は、以下の手順で起動します。**

メモ

実際にリモート UI を起動して本製品の設定を行うのは、ファイルサーバ送信機能の設定（→ P.57）や電子メール送信機能の設定（→ P.77）からです。ここでは、まだリモート UI を起動する必要はありません。

**1.** Internet Explorer などのウェブブラウザを起動します。

**2.** アドレスバーに「http://（本製品の IP アドレス）」と入力し、キーボードの［Enter］キーを押します。



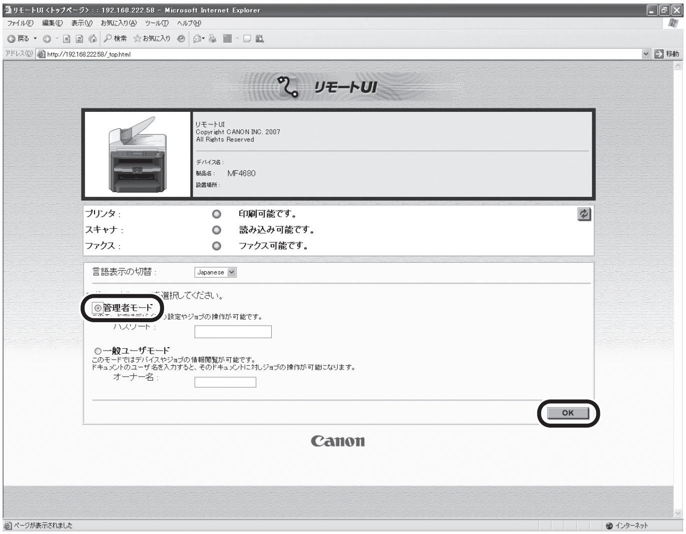

リモート UI 画面が表示されます。

メモ

- アドレスバーに IP アドレスを入力する際には、P.17 で確認した IP アドレスの先頭から連続する「0」を削除して入力してください。ただし、「000」の場合は、「0」の入力が必要です。
  例：192.168.000.008 → 192.168.0.8
- DHCP で本製品に IP アドレスを自動設定している場合、本製品やルータ（DHCP サーバ）を再起動すると、本製品の IP アドレスが変わってしまうことがあります。その場合は、再起動後に IP アドレスを確認しなおすか、または、DHCP 環境下でも特定の IP アドレスを固定できる「手動割り当て」機能や「固定割り当て」機能など（ルータのメーカによって機能名は異なります）を使用して、再起動後も IP アドレスが変わらないよう、あらかじめ設定しておくことをおすすめします。

**3.** ［管理者モード］を選択し、［パスワード］には何も入力しないで、［OK］ボタンをクリックします。

本製品の設定によっては、 パスワードや ID の入力を要求されることがあります。その場合は、設定されているパスワードや ID を入力してください。



### メモ

システム管理暗証番号の設定や部門 ID、管理ユーザ ID 管理を行っている場合は、パスワードや部門 ID、ユーザ ID の入力が必要なことがあります。このような場合は、設定されているパスワードや部門 ID、ユーザ ID を入力してください。詳しくは、本製品に付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 8 章 システム管理設定」*を参照してください。

**次に、Scan to ファイルサーバ機能の設定をする場合は P.21、Scan to E-Mail 機能の設定をする場合は P.76 に進んでください。**

# Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

**本製品の IP アドレスの設定やリモート UI の起動方法が確認できたら、実際に SEND Lite 機能を使ってみましょう。**
**ここでは、Scan to ファイルサーバ機能を使い、本製品でスキャンした原稿をネットワーク上のパソコン（ファイルサーバ）に保存する手順について説明します。**
**Scan to ファイルサーバ機能を使うには、以下の設定が必要です。**

メモ

- Windows 98/98SE/Me/2000/Server 2003 をお使いの場合の設定手順と宛先の登録については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 6 章ネットワーク『ファイルサーバの設定』」*を参照してください。
- 先に Scan to E-Mail 機能を使用したい場合は、P.76 を参照してください。

**Windows XP/Vista をお使いの場合**

↓

**パソコンの設定**

**コンピュータ名と共有フォルダ設定に必要な機能を確認する（→ P.22）**
お使いのパソコンのコンピュータ名と、共有フォルダの設定に必要な機能のインストール状況を確認します。

↓

**共有フォルダの設定（→ P.28）**
スキャンした文書を保存する共有フォルダを設定します。

↓

**本製品の設定**

**ファイルサーバ送信機能の設定（→ P.57）**
リモート UI を使用して、本製品の Scan to ファイルサーバ機能を利用できる状態にします。

↓

**宛先（ファイルサーバ）の登録（→ P.63）**
リモート UI を使用して、宛先を登録します。

↓

**Scan to ファイルサーバ機能の使用（→ P.70）**
実際に、Scan to ファイルサーバ機能を使用してみましょう。

# コンピュータ名と共有フォルダ設定に必要な機能を確認する

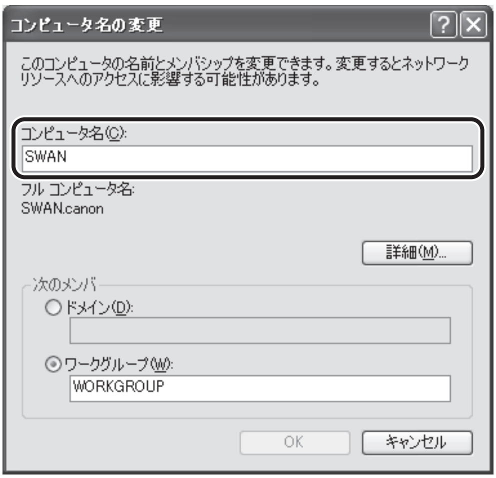
**Scan to ファイルサーバ機能では、パソコンの共有フォルダにスキャンした文書をファイルとして保存するため、パソコン側の準備も必要です。**
**ここで説明する手順で、パソコンのコンピュータ名と、共有フォルダの設定に必要な機能がインストールされていることを、確認しておきましょう。**

## コンピュータ名を確認する

共有フォルダの設定と宛先の登録には、コンピュータ名が必要です。
以下の手順で、コンピュータ名を確認してください。

### Windows XP の場合

1. 管理者の権限で Windows にログオンします。
2. デスクトップの［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、［プロパティ］を選択して、［システムのプロパティ］画面を表示します。
3. ［コンピュータ名］タブをクリックし、［コンピュータ名］ページを表示します。
4. ［変更］ボタンをクリックします。
5. ［コンピュータ名の変更］画面で、［コンピュータ名］を確認します。




**チェック**
ここで確認したコンピュータ名は、共有フォルダの設定と宛先の登録に必要です。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にコンピュータ名をメモしておきましょう。

**6.** ［キャンセル］ボタンを繰り返しクリックし、画面を閉じます。

**以上で、コンピュータ名の確認が終了しました。**

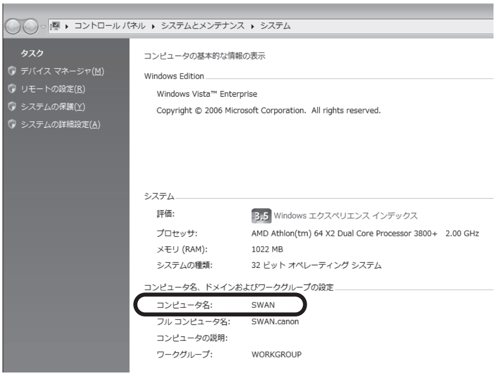
**次に「共有フォルダ設定に必要な機能を確認する」（→ P.24）に進んでください。**

## Windows Vista の場合

**1.** 管理者の権限で、Windows にログオンします。

**2.** ［スタート］メニューの［コンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。

**3.** ［システム］画面で、［コンピュータ名］を確認します。




> ☑ チェック
> ここで確認したコンピュータ名は、共有フォルダの設定と宛先の登録に必要です。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にコンピュータ名をメモしておきましょう。

**4.** ［システム］画面を閉じます。

**以上で、コンピュータ名の確認が終了しました。**

**次に、共有フォルダの設定に必要な機能がお使いのパソコンにインストールされているかどうかを確認します。P.26 に進んでください。**

## 共有フォルダ設定に必要な機能を確認する

共有フォルダの設定に必要な機能が、お使いのパソコンにインストールされているかどうか、以下の手順で確認します。

### Windows XP の場合

**1.** **［ローカルエリア接続のプロパティ］画面を表示します。**

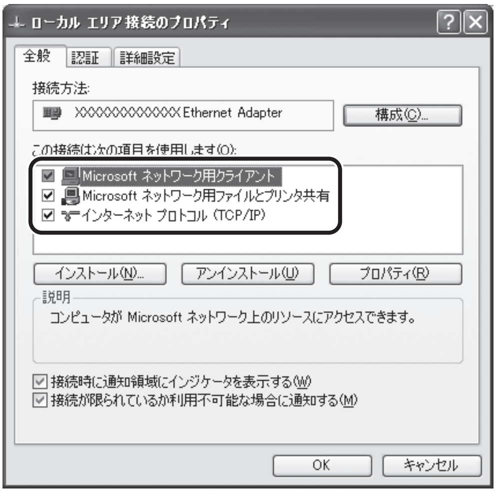
① ［スタート］メニューの［マイネットワーク］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。

② ［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックし、［プロパティ］を選択します。

**2.** **ファイル共有に必要な項目（ネットワークコンポーネント）がインストールされているか確認します。**

以下のネットワークコンポーネントのすべてにチェックマークが付いていることを確認します。チェックマークがはずれている場合は、チェックマークを付けます。

- ［Microsoft ネットワーク用クライアント］
- ［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］
- ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］




**メモ**

各ネットワークコンポーネントがインストールされていない場合は、以下の手順でインストールします。

①［インストール］ボタンをクリックし、［ネットワークコンポーネントの種類の選択］画面を表示します。

- ［Microsoft ネットワーク用クライアント］がインストールされていない場合は、［クライアント］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

次ページにつづく

**前ページよりつづく**

- ［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］がインストールされていない場合は、［サービス］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。
- ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］がインストールされていない場合は、［プロトコル］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

②インストールしたいネットワークコンポートネントを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
［インターネットプロトコル（TCP/IP）］がインストールされていない場合は、パソコンの IP アドレスの設定が必要になります。詳細については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

**3.** ［OK］ボタンを繰り返しクリックし、画面を閉じます。

**4.** 必要に応じてパソコンを再起動します。

**以上で、共有フォルダの設定に必要な機能の確認が終了しました。**

**次に「共有フォルダを設定する」（→ P.28）に進んでください。**

## Windows Vista の場合

**1.** **［ローカルエリア接続のプロパティ］画面を表示します。**

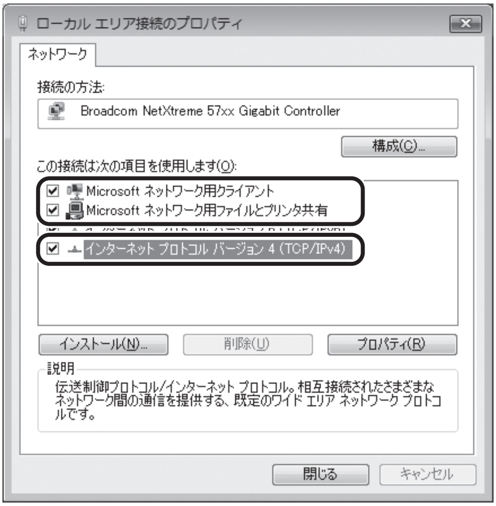
①［スタート］メニューの［ネットワーク］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。
②［ネットワーク接続の管理］をクリックします。
③［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックし、［プロパティ］を選択します。

**メモ**
Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］ボタンをクリックしてください。

**2.** **ファイル共有に必要な項目（ネットワークコンポーネント）がインストールされているか確認します。**

以下のネットワークコンポーネントのすべてにチェックマークが付いていることを確認します。チェックマークがはずれている場合は、チェックマークを付けます。

- ［Microsoft ネットワーク用クライアント］
- ［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］
- ［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4)］




**メモ**
各ネットワークコンポーネントがインストールされていない場合は、以下の手順でインストールします。
①［インストール］ボタンをクリックし、［ネットワークコンポーネントの種類の選択］画面を表示します。
- ［Microsoft ネットワーク用クライアント］がインストールされていない場合は、［クライアント］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

次ページにつづく

**前ページよりつづく**

- ［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］がインストールされていない場合は、［サービス］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。
- ［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）］がインストールされていない場合は、［プロトコル］を選択し、［追加］ボタンをクリックします。

②インストールするネットワークコンポートネントを選択し、［OK］ボタンをクリックします。
［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）］がインストールされていない場合は、パソコンの IP アドレスの設定が必要になります。設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

**3.** ［OK］ボタンを繰り返しクリックし、画面を閉じます。

**4.** 必要に応じてパソコンを再起動します。

**以上で、共有フォルダの設定に必要な機能の確認が終了しました。**

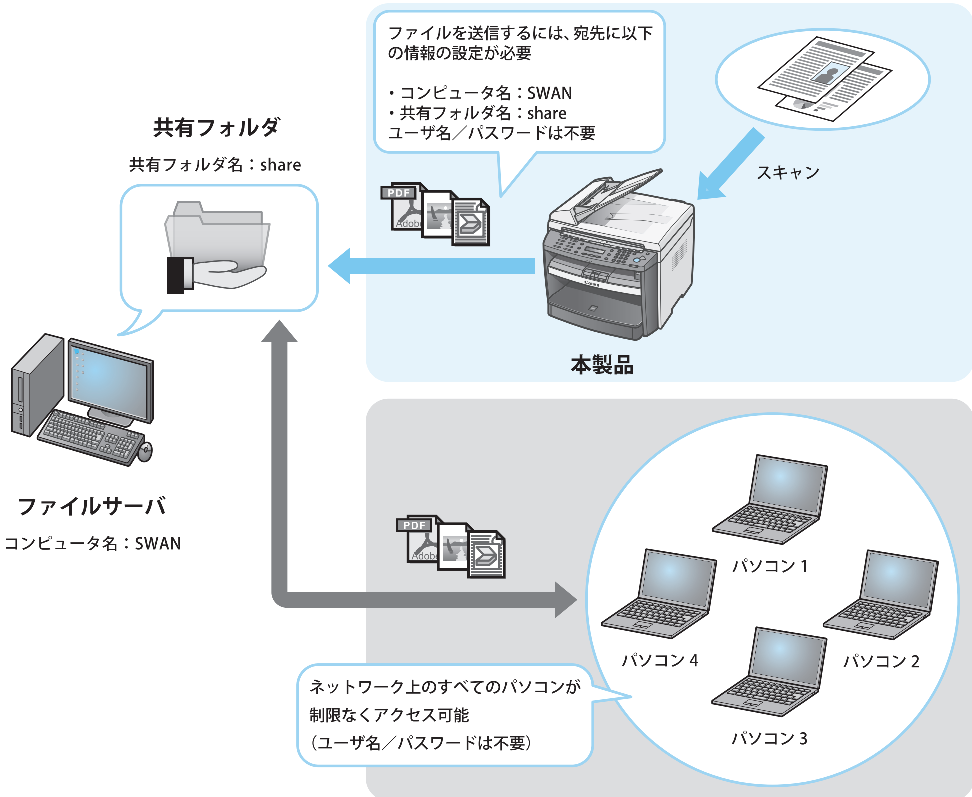
**次に「共有フォルダを設定する」（→ P.28）に進んでください。**

# 共有フォルダを設定する

**必要な機能がインストールされていることを確認したら、本製品からスキャンした文書をファイルとして保存するための共有フォルダを設定しましょう。**
**共有フォルダの設定には、以下の 2 つの方法があります。**

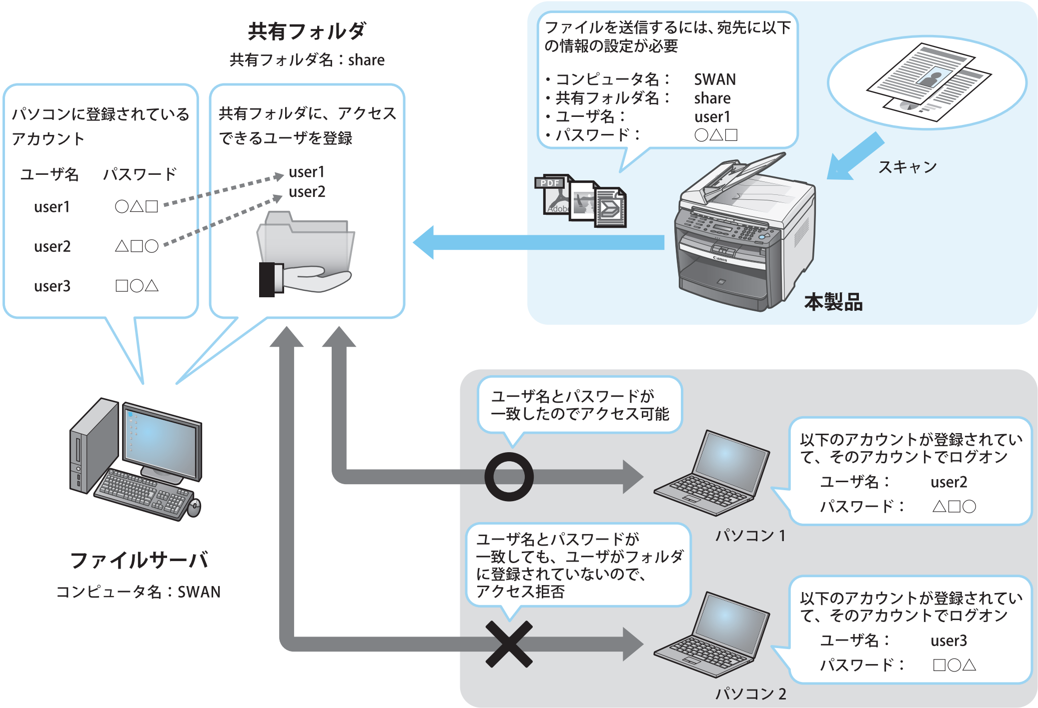
## ● アクセス制限をしない共有フォルダ

ネットワーク上のパソコンでファイルを自由に共有したい場合は、「アクセス制限をしない共有フォルダ」が便利です。
アクセス制限をしない共有フォルダには、ネットワーク内のすべてのパソコンがアクセスすることができ、アクセス時にユーザ名やパスワードを指定する必要もありません。



## ● アクセス制限をする共有フォルダ

共有フォルダにアクセスできるユーザを区別したい場合は、「アクセス制限をする共有フォルダ」が便利です。
このタイプの共有フォルダにアクセスするには、アクセス時に共有フォルダに設定されているアカウント（ユーザ名とパスワード）を指定する必要があります。アカウントを知らないと、共有フォルダにアクセスすることはできません。




### メモ

- Windows XP に Service Pack 2 がインストールされている場合や Windows Vista をお使いの場合に、Windows ファイアウォールを有効にすると、設定によってはファイルやプリンタの共有を使用できないことがあります。ファイル共有を使用できるようにするには、「困ったときには」の「Windows ファイアウォールについて」（→ P.104）を参照してください。
- お使いのパソコンにセキュリティソフトがインストールされている場合、セキュリティソフトのファイアウォール機能（外部からの不正なアクセスを遮断する機能）が、本製品から共有フォルダへのアクセスを制限し、共有フォルダにデータを保存できないことがあります。詳細については、セキュリティソフトに添付のマニュアルを参照してください。

## アクセス制限をしない共有フォルダを設定する

ここでは、ネットワーク上のパソコンでファイルを自由に共有する方法について説明します。

### Windows XP の場合

Windows XP Professional と Windows XP Home Edition では、簡易ファイル共有を使用して、アクセス制限をしない共有フォルダを設定します。

**メモ**

Windows XP Professional をお使いの場合で、簡易ファイル共有が無効になっているときは、以下の手順で有効にします。

- ［スタート］メニューの［コントロールパネル］－［フォルダオプション］の順に選択して、［フォルダオプション］画面を表示します。
- ［表示］タブを選択して、［表示］ページを表示します。
- ［詳細設定］の［簡易ファイルの共有を使用する（推奨）］にチェックマークを付けます。
- ［OK］ボタンをクリックして、［フォルダオプション］画面を閉じます。

**1.** **任意のドライブに、共有するフォルダを新規作成します。**

フォルダは､C ドライブの直下など､わかりやすい場所に作成しておくことをおすすめします。
例：C:¥share

**重要**

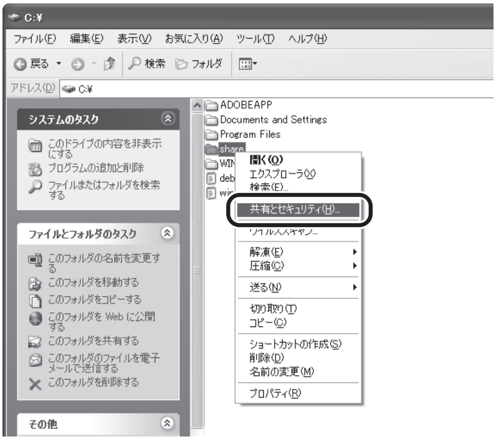
フォルダ名には半角英数字を使用してください。

**チェック**

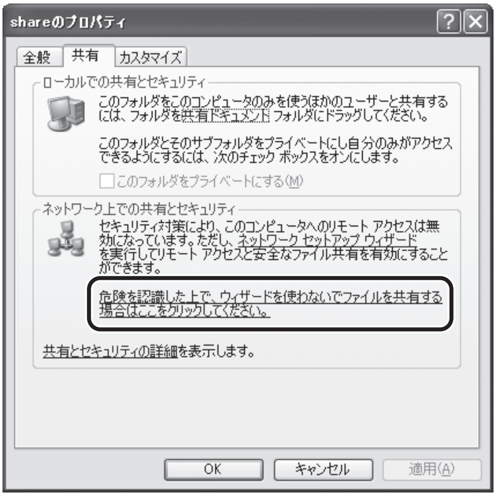
ここで作成したフォルダ名は、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にフォルダ名をメモしておきましょう。

**2.** **作成したフォルダを右クリックします。**

**3.** ［共有とセキュリティ］を選択し、［<フォルダ名>のプロパティ］画面を表示します。



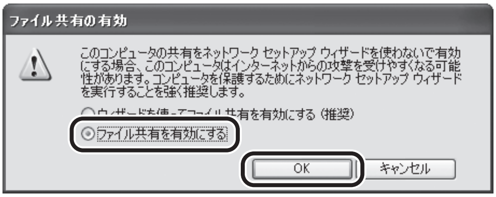
**4.** ［危険を認識した上で、ウィザードを使わないでファイルを共有する場合はここをクリックしてください。］をクリックします。



メモ

2 回目以降は上記のメッセージは表示されません。この場合は手順 6 へ進んでください。

**5.** ［ファイル共有の有効］画面の［ファイル共有を有効にする］にチェックマークを付け、［OK］ボタンをクリックします。




**6.** ［ネットワーク上でこのフォルダを共有する］と［ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する］にチェックマークを付けます。




**7.** ［OK］ボタンをクリックし、［<フォルダ名>のプロパティ］画面を閉じます。

**以上で、共有フォルダの設定が完了しました。**

**次に「ファイルサーバ送信機能を設定する」（→ P.57）に進んでください。**

## Windows Vista の場合

Windows Vista では、ファイルの共有を前提とした特別なフォルダ（パブリックフォルダ）が最初から用意されています。パブリックフォルダを使用して、アクセス制限をしない共有フォルダを設定します。

**メモ**

初期設定では、パブリックフォルダは Vista をインストールしたドライブ直下にある［ユーザー］フォルダの下に作成されています。
ただし、宛先の［フォルダへのパス］( → P.65）にパブリックフォルダを指定する場合は、半角英数で指定します。
例：¥Public¥share

### ● パブリックフォルダを共有する

1. ［スタート］メニューの［コントロール］パネルを選択し、［コントロールパネル］を表示します。

2. ［ファイルの共有の設定］をクリックし、［ネットワークと共有センター］画面を表示します。

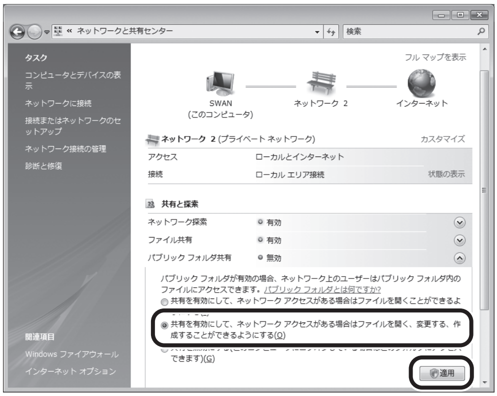



Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

**3.** ［ネットワークと共有センター］画面で、［パブリック フォルダ共有］の横にある下向きの矢印をクリックします。




**4.** ［共有を有効にして、ネットワークアクセスがある場合はファイルを開く、変更する、作成することができるようにする］を選択し、［適用］をクリックします。



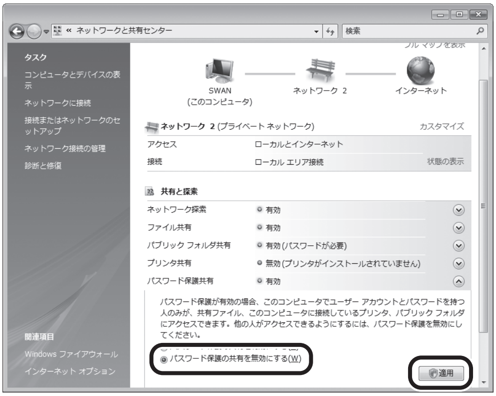

メモ

- ［共有を有効にして、ネットワーク アクセスがある場合はファイルを開くことができるようにする］は選択しないでください。こちらを選択すると、本製品からスキャンした文書を共有フォルダにファイルとして保存することができなくなります。
- Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

**5.** ［パスワード保護共有］の横にある下向きの矢印をクリックします。




**6.** ［パスワード保護の共有を無効にする］をクリックし、［適用］をクリックします。




**メモ**

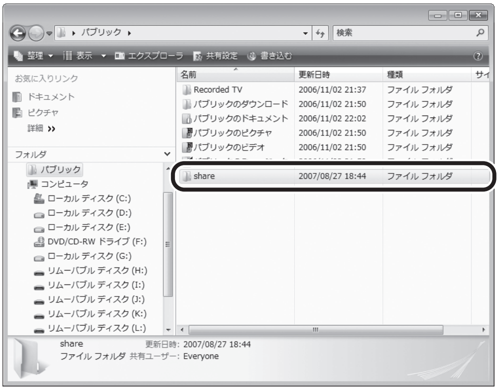
Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

## ● ファイルを保存するフォルダを作成する

パブリックフォルダの直下にもファイルを保存できますが、ここではパブリックフォルダ内に保存用のフォルダを新規に作成しましょう。

**1.** エクスプローラなどで、［パブリック］フォルダを表示します。

**2.** 「パブリック」フォルダの下に、新規にフォルダを作成します。




**重要**

フォルダ名には半角英数字を使用してください。

**チェック**

ここで作成したフォルダ名は、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にフォルダ名をメモしておきましょう。

**以上で、共有フォルダの設定が完了しました。**

**次に「ファイルサーバ送信機能を設定する」（→ P.57）に進んでください。**

## アクセス制限をする共有フォルダを設定する

アクセス制限をする共有フォルダには、パソコン(ファイルサーバ)に登録されているユーザを、共有フォルダにアクセス可能なユーザとして設定します。

メモ

Windows XP Professional をお使いの場合で、簡易ファイル共有が有効になっているときは、以下の手順で無効にします。

- [スタート]メニューから[コントロールパネル]－[フォルダオプション]の順に選択して、[フォルダオプション]画面を表示します。
- [表示]タブを選択して、[表示]ページを表示します。
- [詳細設定]の[簡易ファイルの共有を使用する(推奨)]のチェックマークをはずします。
- [OK]ボタンを押し、フォルダオプション]画面を閉じます。

### 共有フォルダにアクセスするユーザの作成

共有フォルダにアクセスするユーザは、パソコン(ファイルサーバ)にログオンするときのアカウントとして、事前に作成しておく必要があります。ここでは、パソコンに新規アカウントを作成する手順を説明します。

メモ

以下の手順で新規アカウント(ユーザ名とパスワード)を作成しなくても、既に登録されているアカウントを、共有フォルダにアクセスできるユーザとして追加することもできます。この場合、既に登録されているアカウントにパスワードが設定されていなかったときは、パスワードの作成が必要になります。パスワードを作成すると、パソコンにログオンするときにも、入力を求められるようになります。

#### ● Windows XP Professional の場合

**1.** [スタート]メニューの[コントロールパネル]を選択し、[コントロールパネル]を表示します。

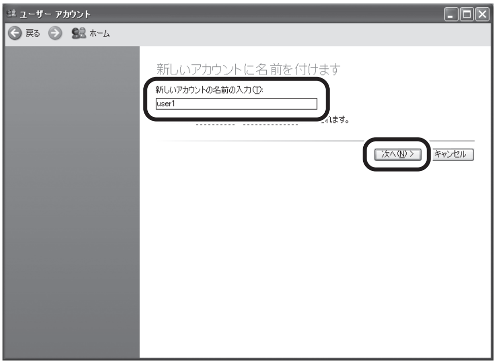
**2.** [ユーザーアカウント]をクリックします。



**3.** ［ユーザーアカウント］画面で、［新しいアカウントを作成する］をクリックします。




**4.** ［新しいアカウントの名前の入力］にユーザ名を入力し、［次へ］をクリックします。




**重要**

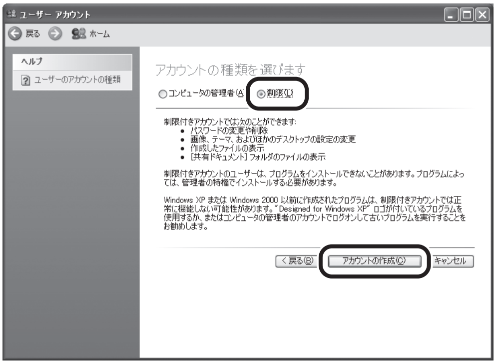
ユーザ名は半角英数 20 文字以内で入力します。

**チェック**

ここで設定したユーザ名は、共有フォルダの設定と宛先の登録に必要です。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にユーザ名をメモしておきましょう。

Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

**5.** ［制限］を選択し、［アカウントの作成］をクリックします。

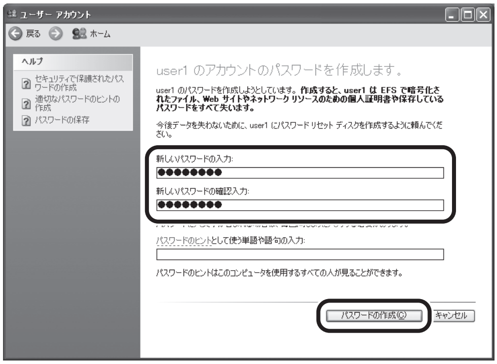



**6.** 作成したユーザをクリックし、［パスワードを作成する］をクリックします。




Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

**7.** ［新しいパスワードの入力］と［新しいパスワードの確認入力］にパスワードを入力し、［パスワードの作成］をクリックします。




**重要**
パスワードは半角英数 14 文字以内で入力します。

**チェック**
ここで設定したパスワードは、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にパスワードをメモしておきましょう。

**8.** ［ユーザーアカウント］画面を閉じます。

**以上で、ユーザの作成が完了しました。**

**次に「共有フォルダとアクセス許可を設定する」（→ P.44）に進んでください。**

## ● Windows Vista の場合

**1.** ［スタート］メニューの［コントロールパネル］を選択し、［コントロールパネル］を表示します。

**2.** ［ユーザーアカウントの追加または削除］をクリックします。



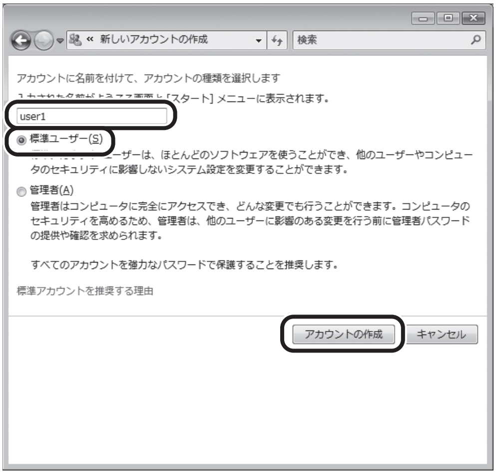
### メモ

Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］をクリックしてください。

**3.** ［アカウントの管理］画面で、［新しいアカウントの作成］をクリックします。



**4.** ［新しいアカウントの作成］画面でユーザ名を入力し、［標準ユーザ］を選択して、［アカウントの作成］をクリックします。




**重要**

ユーザ名は半角英数 20 文字以内で入力します。

**チェック**

ここで設定したユーザ名は、共有フォルダの設定と宛先の登録に必要です。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にユーザ名をメモしておきましょう。

**5.** ［アカウントの変更］画面で作成したユーザをクリックし、［パスワードの作成］をクリックします。



**6.** ［パスワードの作成］画面で、黒い枠で囲まれている 2 つの欄にパスワードを入力し、［パスワードの作成］をクリックします。




**重要**
パスワードは半角英数 14 文字以内で入力します。

**チェック**
ここで設定したパスワードは、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にパスワードをメモしておきましょう。

**7.** ［アカウントの変更］画面を閉じます。

**以上で、ユーザの作成が完了しました。**

**次に、「共有フォルダとアクセス許可を設定する」（→ P.44）に進んでください。**

## 共有フォルダとアクセス許可を設定する

パソコンにアカウントを作成したら、次は共有フォルダを作成します。共有フォルダには、作成したアカウントを共有フォルダにアクセスできるユーザとして追加し、加えてそのユーザのアクセス許可も設定します。

**アクセス許可について**
「アクセス許可」とは、パソコンに登録されているユーザに対して、フォルダやファイル操作の権限を与えることを言います。
アクセス許可には以下の 2 種類があります。

**●ネットワークのアクセス許可**（→ P.46）
ネットワーク経由で共有フォルダにアクセスするユーザを制限します。
**●ローカルのアクセス許可**（→ P.50）
パソコンにログオンしたユーザのフォルダへのアクセスを制限します。
「ローカルのアクセス許可」は、フォルダのあるドライブが、NTFS でフォーマットされている場合のみ設定できます。

### ● Windows XP Professional の場合

**1. 共有フォルダを設定します。**

① 任意のドライブに、共有するフォルダを新規作成します。

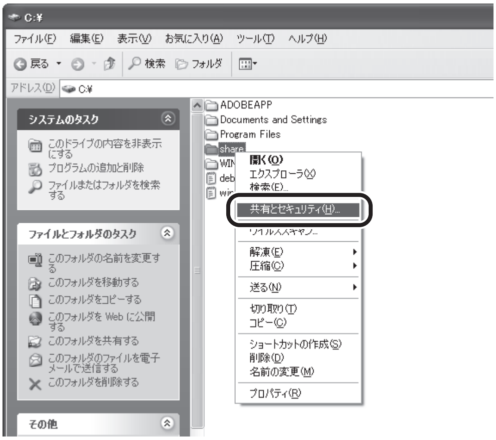
フォルダは、C ドライブの直下など、わかりやすい場所に作成しておくことをおすすめします。
例：C:¥share

**重要**
フォルダ名には半角英数字を使用してください。

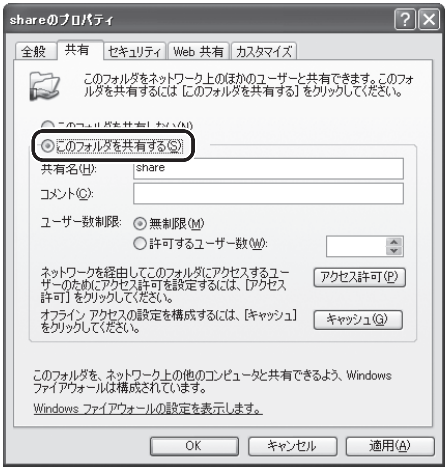
**チェック**
ここで作成したフォルダ名は、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にフォルダ名をメモしておきましょう。

② 作成したフォルダを右クリックします。

③［共有とセキュリティ］を選択し、［＜フォルダ名＞のプロパティ］画面を表示します。




④［このフォルダを共有する］を選択します。

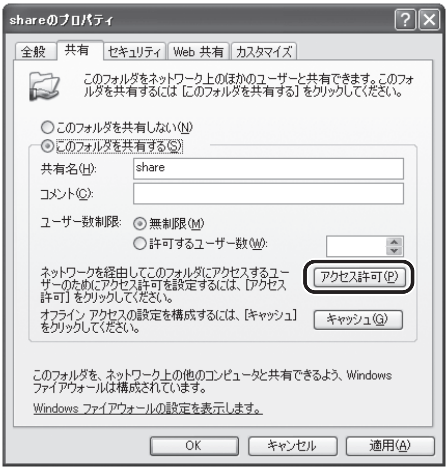



Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

## 2. ネットワークのアクセス許可を設定します。

**ネットワークのアクセス許可とは**
ネットワーク経由で共有フォルダにアクセスするユーザを制限します。
ネットワーク経由で共有フォルダにアクセスしてきたユーザのアカウントがパソコンに登録されていない場合、そのユーザはフォルダへのアクセスを拒否されます。また登録されていても、アクセス許可を与えられていない場合は、アクセスを拒否されます。

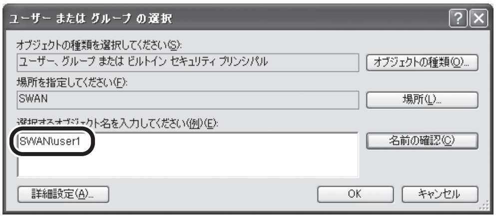
① ［共有］ページで［アクセス許可］ボタンをクリックし、［<フォルダ名>のアクセス許可］画面を表示します。




② ［追加］ボタンをクリックし、［ユーザーまたはグループの選択］画面を表示します。



③［選択するオブジェクト名を入力してください］に、以下の内容を入力します。
［コンピュータ名］\［ユーザ名］




## メモ

- "\" はキーボードの［¥］で入力します。
- コンピュータ名とユーザ名は、巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした内容を入力してください。

④［名前の確認］をクリックし、オブジェクト名が正しく入力されていることを確認します。

## メモ

間違ったオブジェクト名が入力されていると、［名前が見つかりません］画面が表示されます。［キャンセル］をクリックし、コンピュータ名とユーザ名が間違っていないか確認してください。

⑤［OK］ボタンをクリックし、［ユーザーまたはグループの選択］画面を閉じます。

Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

⑥［＜フォルダ名＞のアクセス許可］画面で、［グループ名またはユーザー名］からアクセスを許可するユーザを選択し、［許可］の［フルコントロール］にチェックマークを付けます。

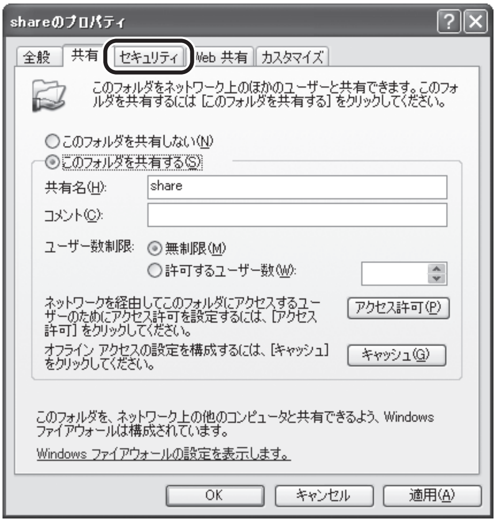



**重要**

本製品でスキャンしたデータをパソコン（ファイルサーバ）に保存できるようにするため、ここでは［フルコントロール］にチェックマークを付けてください。

⑦［OK］ボタンをクリックし、［＜フォルダ名＞のアクセス許可］画面を閉じます。

⑧［<フォルダ名>のプロパティ］画面で、［セキュリティ］タブが表示されている場合は、P.50 の手順 3 に進んでローカルのアクセス許可を設定してください。［セキュリティ］タブが表示されていない場合は、P.52 の手順 4 に進んでください。




**メモ**

次の場合は、［セキュリティ］タブが表示されません。

- 共有フォルダを設定したドライブが FAT16 または FAT32 でフォーマットされている場合
- 簡易ファイル共有が有効になっている場合

**ファイルシステムについて**

Windows で主に使用されているファイルシステムには、FAT（FAT16、FAT32）と NTFS があります。NTFS は、FAT よりもセキュリティ面などで優れています。

Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

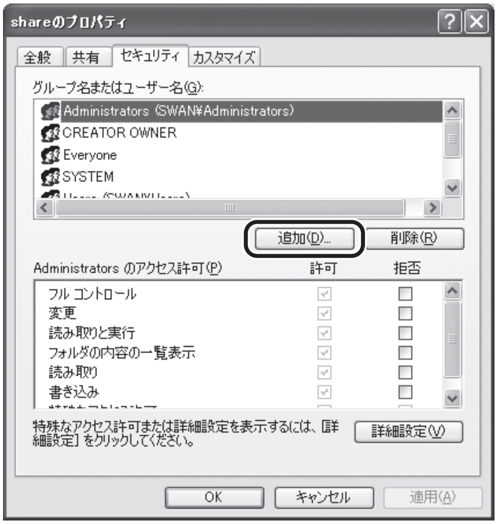
## 3. ローカルのアクセス許可を設定する

共有フォルダを設定したドライブが NTFS でフォーマットされている場合は、ネットワークのアクセス許可に加えて、ローカルのアクセス許可の設定が必要です。

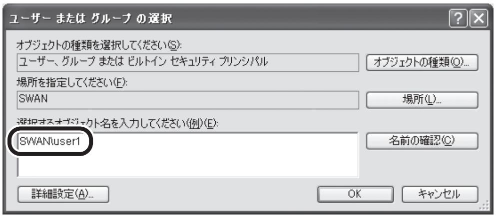
**ローカルのアクセス許可とは**
パソコン上でのフォルダへのアクセスを制限します。
たとえば、複数のユーザが同じパソコンを使用している場合、あるユーザが他のユーザの作成したフォルダにアクセスしようとしても、許可を与えられていなければアクセスを拒否されます。
ローカルのアクセス許可は、共有フォルダのあるドライブが、NTFS でフォーマットされている場合に設定できます。

① [＜フォルダ名＞のプロパティ] 画面で [セキュリティ] タブをクリックし、[セキュリティ] ページを表示します。

② [追加] ボタンをクリックし、[ユーザーまたはグループの選択] 画面を表示します。



③［選択するオブジェクト名を入力してください］に、以下の内容を入力します。
［コンピュータ名］\［ユーザ名］




## メモ

- “\” はキーボードの［¥］で入力します。
- コンピュータ名とユーザ名は、巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした内容を入力してください。

④［名前の確認］をクリックし、オブジェクト名が正しく入力されていることを確認します。

## メモ

間違ったオブジェクト名が入力されていると、［名前が見つかりません］画面が表示されます。［キャンセル］をクリックし、コンピュータ名とユーザ名が間違っていないか確認してください。

⑤［OK］ボタンをクリックし、［ユーザーまたはグループの選択］画面を閉じます。

⑥［セキュリティ］ページで、［グループ名またはユーザー名］からアクセスを許可するユーザを選択し、［許可］の［フルコントロール］にチェックマークを付けます。




**重要**

本製品でスキャンしたデータをパソコン（ファイルサーバ）に保存できるようにするため、ここでは［フルコントロール］にチェックマークを付けてください。

**4.** ［OK］ボタンをクリックし、［<フォルダ名>のプロパティ］画面を閉じます。

**以上で、共有フォルダとアクセス許可の設定が完了しました。**

**次に「ファイルサーバ送信機能を設定する」（→ P.57）に進んでください。**

## ● Windows Vista の場合

**1.** **任意のドライブに、共有するフォルダを新規作成します。**

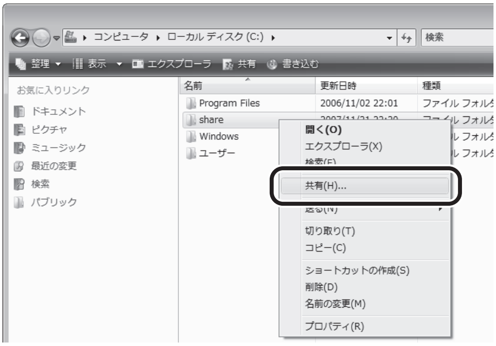
フォルダは、C ドライブの直下など、わかりやすい場所に作成しておくことをおすすめします。
例：C:¥share

**重要**
フォルダ名には半角英数字を使用してください。

**チェック**
ここで作成したフォルダ名は、宛先を登録する際に必要になります。忘れないように、巻末のチェックシート（→ P.118）にフォルダ名をメモしておきましょう。

**2.** **作成したフォルダを右クリックします。**

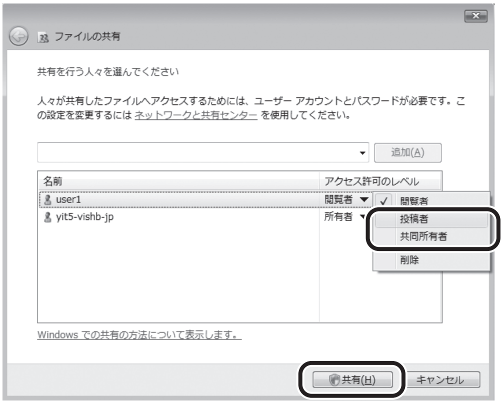
**3.** **［共有］を選択し、［ファイルの共有］画面を表示します。**




**4.** **［追加］の左側の［▼］をクリックし、P.42 で作成したユーザを選択して、［追加］をクリックします。**



**5.** 追加したユーザを選択し、［投稿者］または［共同所有者］にチェックマークを付けて、［共有］をクリックします。




### メモ

- Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］をクリックしてください。
- Windows Vista のアクセス許可について
  閲覧者：ファイルの閲覧のみ可能です。
  投稿者：ファイルの作成、変更、削除が可能です。ただし、アクセス許可の変更はできません。
  共同所有者：ファイルの作成、変更、削除、アクセス許可の変更など、すべてのファイル操作が可能です。

**6.** ［終了］ボタンをクリックし、［ファイルの共有］画面を閉じます。

**以上で、共有フォルダとアクセス許可の設定が完了しました。**

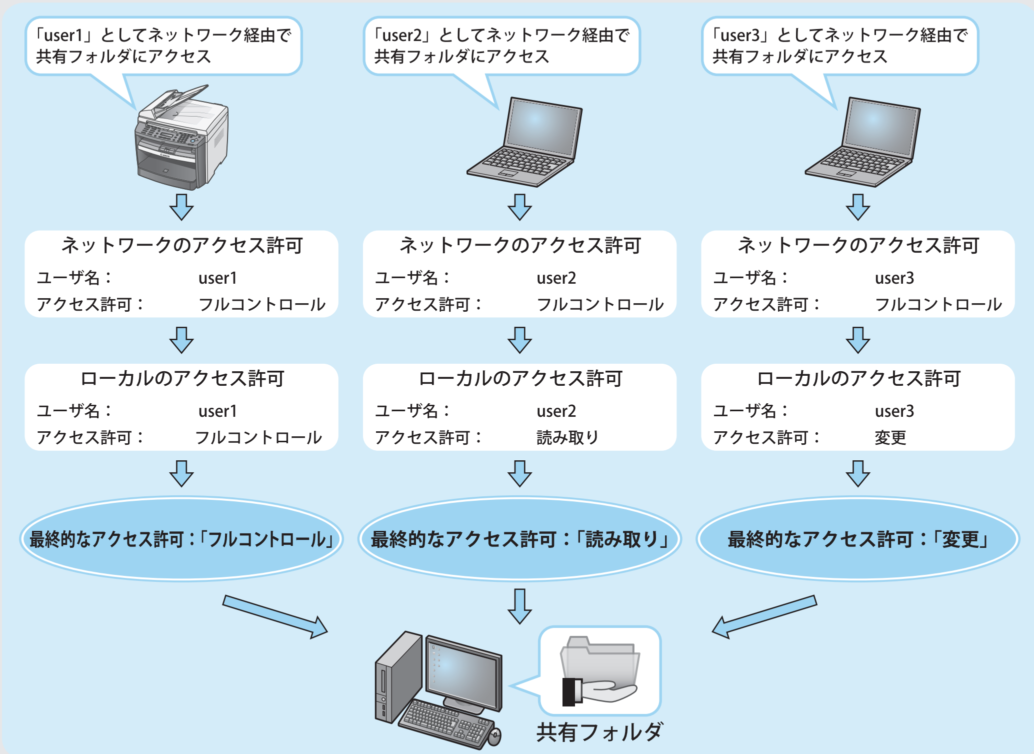
**次に「ファイルサーバ送信機能を設定する」（→ P.57）に進んでください。**

## 詳細なアクセス許可について

P.44 から P.54 の手順では、本製品から共有フォルダにデータを送信（書き込み）できるようにするために、共有フォルダの「user1」のアクセス許可を「フルコントロール」に設定しました。
これに対し、ネットワーク上のパソコンとファイルサーバ間のファイル共有の場合には、以下のとおりアクセス許可の設定を使いわけ、ユーザアカウントごとに異なる権限を与えることができます。

**メモ**

ネットワーク経由で共有フォルダにアクセスするには、「ネットワークのアクセス許可」と「ローカルのアクセス許可」のどちらも設定する必要があり、より厳しい方のアクセス許可が適用されます。
ネットワークのアクセス許可を「フルコントロール」に設定し、ローカルのアクセス許可で詳細な設定すると、アクセス許可の管理が簡単になります。




Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

メモ

- Windows XP Professional で P.55 のように設定するには、P.44 から P.52 の手順を参考に、それぞれのユーザアカウントごとに異なる権限を設定してください。
- Windows Vista で P.55 のように設定するには、P.53 から P.54 の手順を参考に、それぞれのユーザアカウントごとに異なる権限を設定してください。
  なお、Windows Vista の場合、ローカルのアクセス許可の設定画面は以下の手順で表示します。
  －エクスプローラなどで共有するフォルダを右クリックし、［プロパティ］を選択します。
  －［共有］ページで［詳細な共有］をクリックします。

# ファイルサーバ送信機能を設定する

**パソコン側の設定が完了したら、次は本製品側のファイルサーバ送信機能を設定しましょう。**

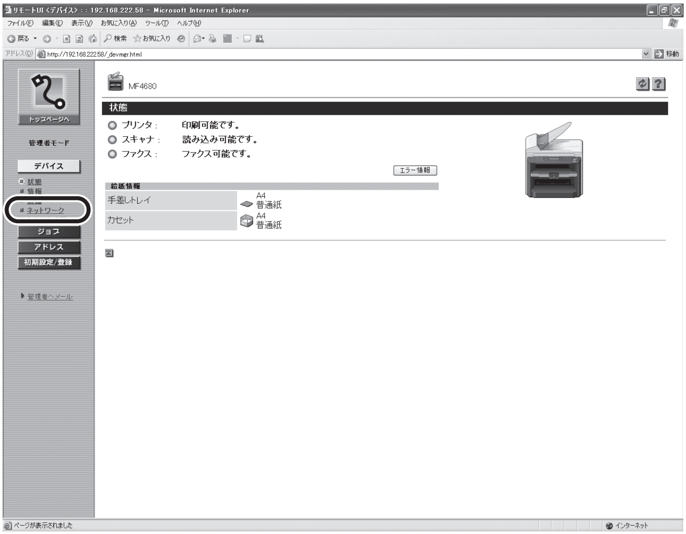
**1.** リモート UI を起動し、管理者モードでログインします。

メモ

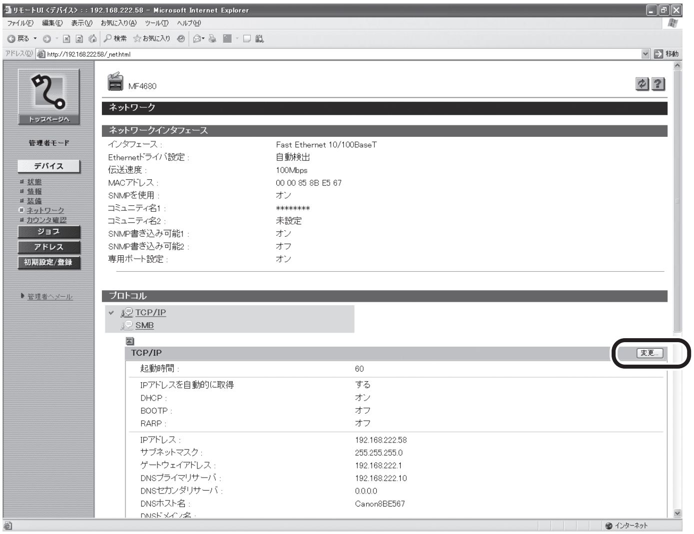
リモート UI の起動方法については、「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を参照してください。

**2.** ［デバイス］の下の［ネットワーク］をクリックします。

［ネットワーク］が表示されていない場合は、［デバイス］をクリックしてください。



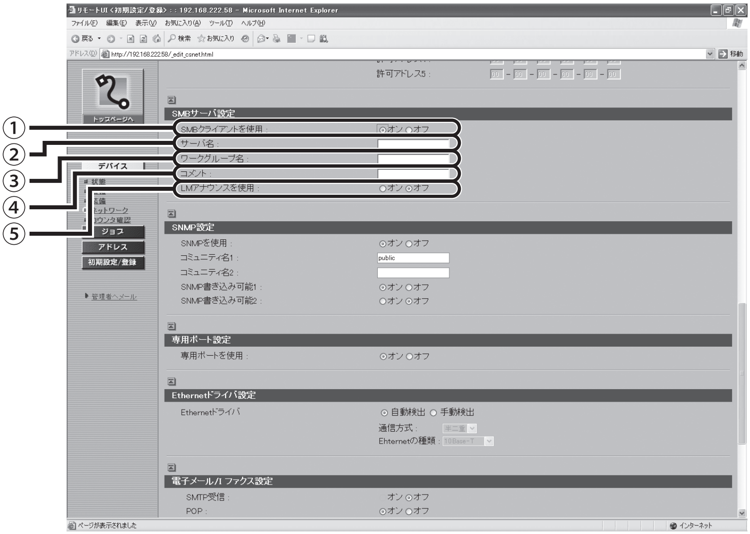
**3.** ［変更］をクリックします。



**4.** スクロールバーを使用して、画面を下にスクロールさせます。



**5.** ファイルサーバ送信機能を設定します。



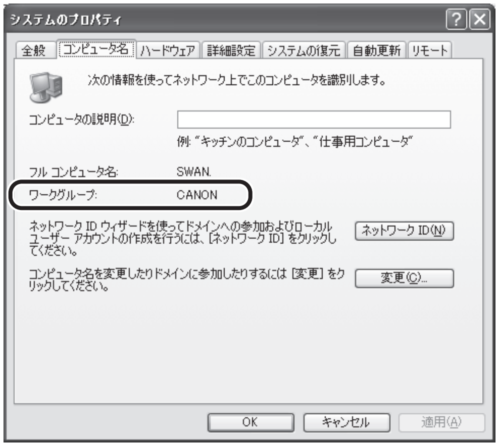

① SMB クライアントを使用（必須）：　［オン］を選択します。本製品のファイルサーバ送信機能が使用できるようになります。

②サーバ名（任意）：　エクスプローラなどで開いたときに表示されるネットワーク上の本製品の名前を入力します（半角カタカナ、英数字で最大 15 文字。スペースの入力は不可）。
例：My_printer
たとえば Windows XP では、エクスプローラ上で以下のように表示されます。

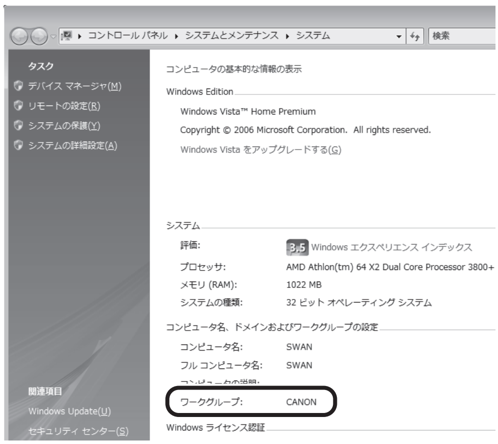


③ワークグループ名（任意）：

送信先のパソコン（スキャンした文書をファイルとして保存するための共有フォルダがあるパソコン）と同じワークグループ名を入力します（半角カタカナ、英数字で最大 15 文字。スペースの入力は不可）。設定したワークグループの中の機器として、ネットワーク上に本製品が表示されます。送信先のパソコンにワークグループが設定されていない場合は、空欄のままにします。
Windows XP では、［システムのプロパティ］画面から、ワークグループ名が確認できます。




Windows Vista では、［システム］画面から、ワークグループ名が確認できます。




Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

④コメント（任意）：　コメントを入力します（半角カタカナ、英数字で最大 48 文字）。ここで入力したコメントは、ネットワーク上に表示されます。

⑤ LM アナウンスを使用（任意）：　本製品の存在を LAN Manager に通知するかどうかを設定します。ネットワーク上の混雑を避けたい場合は、［オフ］のままにします。

**6.** **設定内容を確認したら、スクロールバーを使用して、画面を上にスクロールさせます。**



**7.** ［OK］をクリックします。




**8.** いったん本製品の主電源スイッチを切り、10 秒待ってから再び主電源スイッチを入れてください。

> **重要**
> 設定を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

**以上で、ファイルサーバ送信機能の設定が完了しました。**

**次に「宛先を登録する（ファイルサーバ）」（→ P.63）に進んでください。**

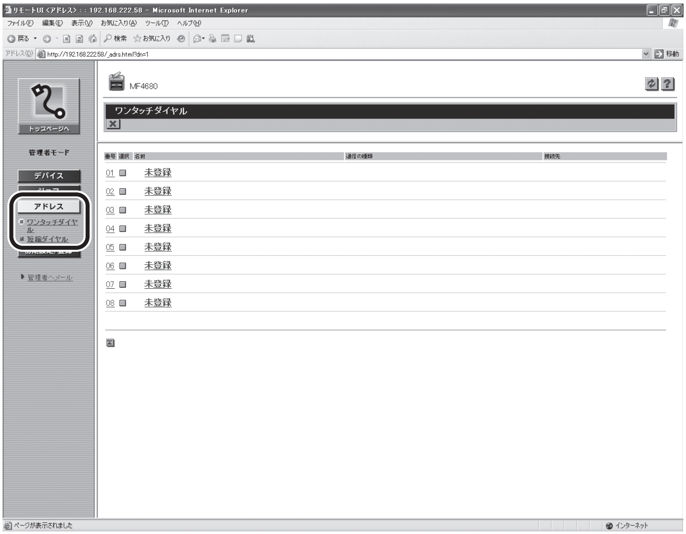
# 宛先を登録する（ファイルサーバ）

**本製品でスキャンした文書をファイルとしてパソコン（ファイルサーバ）へ送信するには、送信先のコンピュータ名や共有フォルダの情報などを、本製品に宛先として登録する必要があります。**

**1.** リモート UI を起動し、管理者モードでログインします。

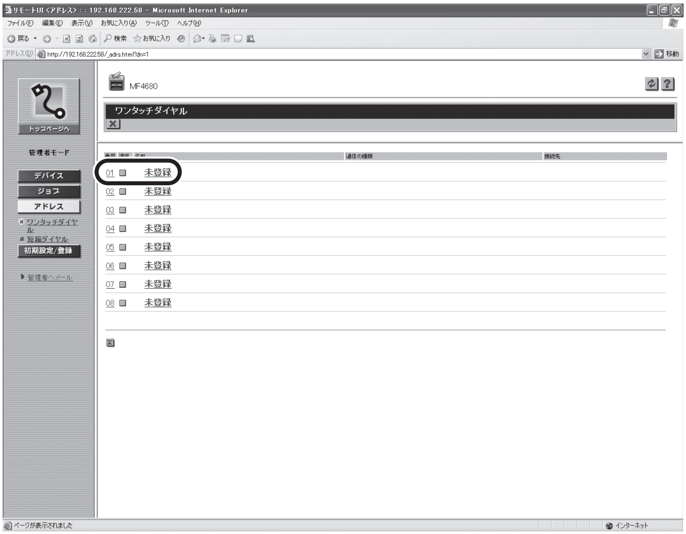
> **メモ**
>
> リモート UI の起動方法については、「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を参照してください。

**2.** ［アドレス］をクリックし、メニューから［ワンタッチダイヤル］または［短縮ダイヤル］を選択します。

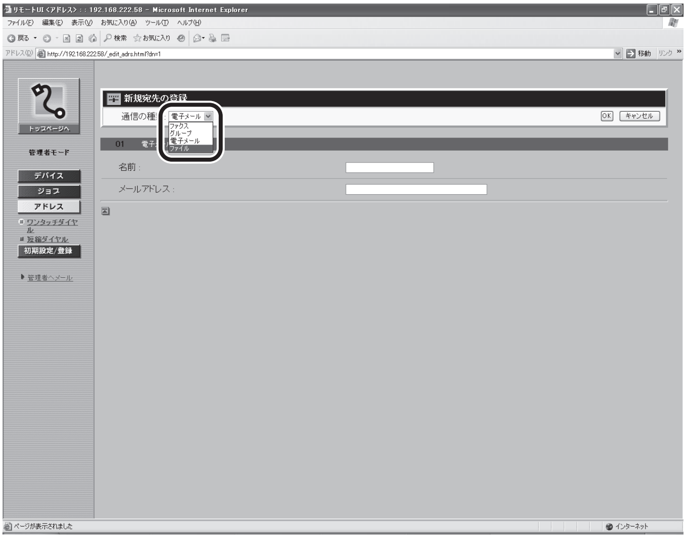



> **メモ**
>
> ［ワンタッチダイヤル］または［短縮ダイヤル］に宛先を登録しておくと、本製品の操作パネルのワンタッチダイヤルキーまたは［短縮］キーを使用して、ファイルサーバにファイルを送信することができます。

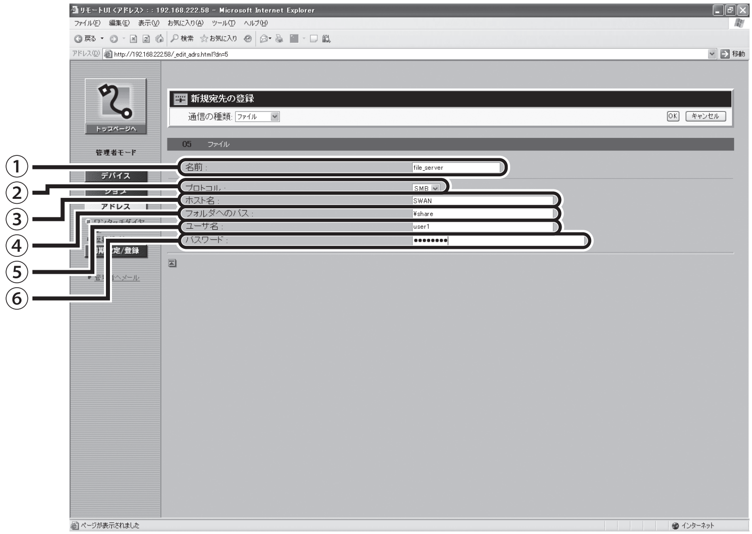
**3.** ［未登録］をクリックします。




**4.** ［通信の種類］から［ファイル］を選択します。

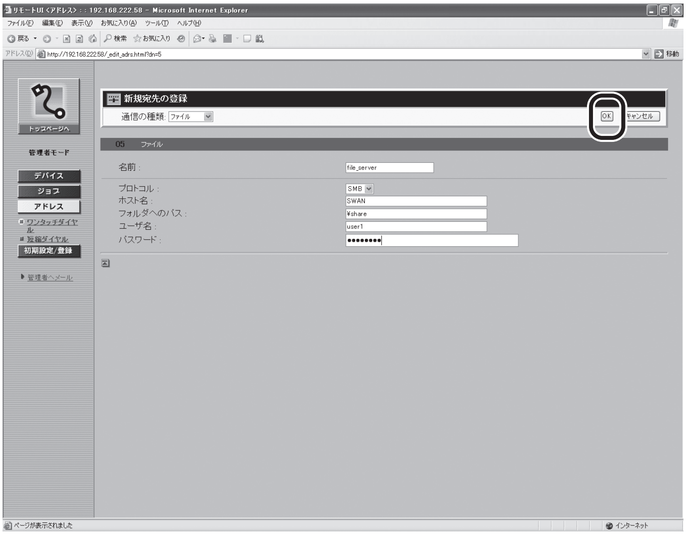


**5.** 以下を入力します。




| | |
|---|---|
| ①名前（任意）： | 送信先の名前を入力します（半角カタカナ、英数字で最大 16 文字）。入力した名前が宛先表に表示されます。 |
| ②プロトコル： | ［SMB］固定です。 |
| ③ホスト名（必須）： | 巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［コンピュータ名］を入力します。 |
| ④フォルダへのパス（必須）： | 巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［フォルダ名］を入力します。フォルダ名の前には“¥”を付けます。<br>例：¥share<br>共有フォルダの下にさらにフォルダを作成した場合は、そのフォルダ名も入力します。フォルダ名は“¥”で区切ります。<br>例：¥share¥images<br>Windows Vista でパブリックフォルダ共有（→ P.33）を設定した場合は、パブリックフォルダとその下のフォルダを“¥”で区切り、以下のように入力します。<br>例：¥Public¥share |
| ⑤ユーザ名（任意）： | アクセス制限をする共有フォルダにファイルを送信する場合は、巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［ユーザ名］を入力します。アクセス制限をしない共有フォルダにファイルを送信する場合は、空欄のままにします。 |
| ⑥パスワード（任意）： | アクセス制限をする共有フォルダにファイルを送信する場合は、巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［パスワード］を入力します。アクセス制限をしない共有フォルダファイルを送信する場合は、空欄のままにします。 |

**6.** 設定内容を確認したら、［OK］をクリックします。



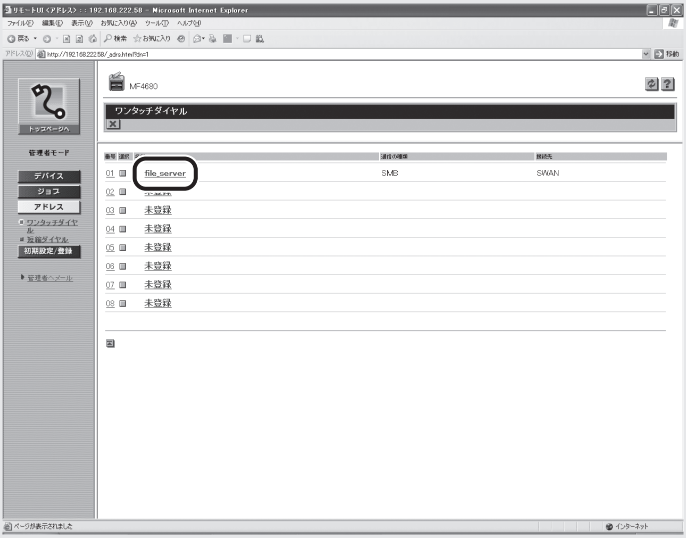
**以上で、宛先の設定が完了しました。**

**次に「ファイルサーバへ送信する」（→ P.70）に進んでください。**

## 宛先の登録内容を表示／修正するには

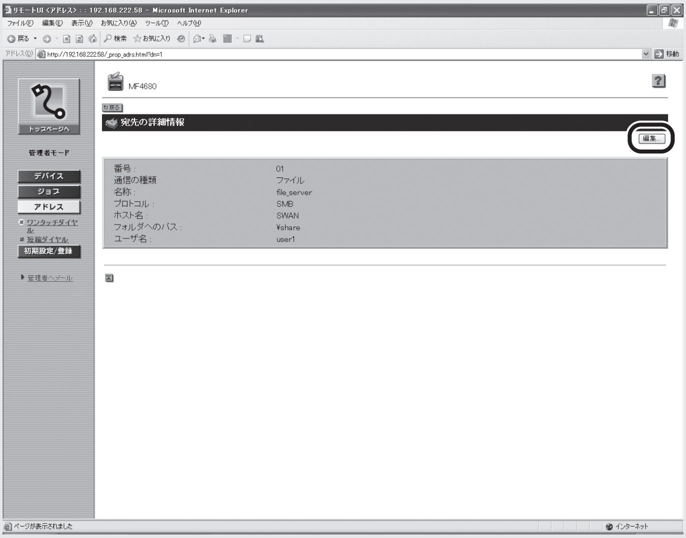
登録した内容に間違いがあった場合は以下の手順で修正します。

**1.** **宛先の登録内容を表示するには、宛先の名前をクリックします。**

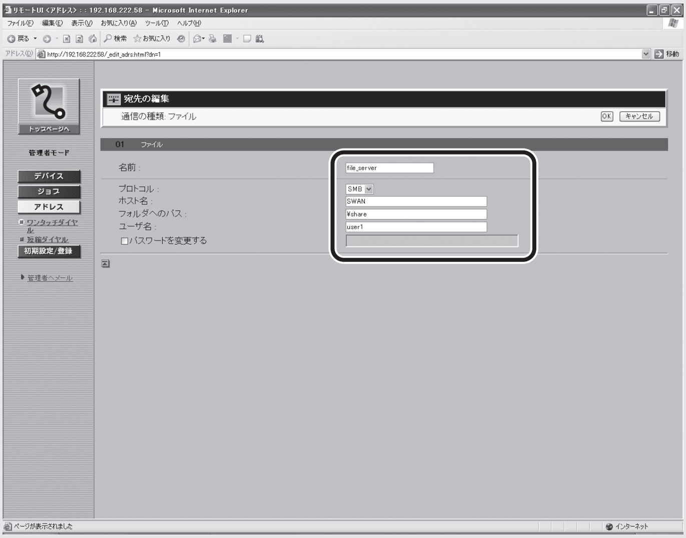



宛先の登録内容が表示されます。

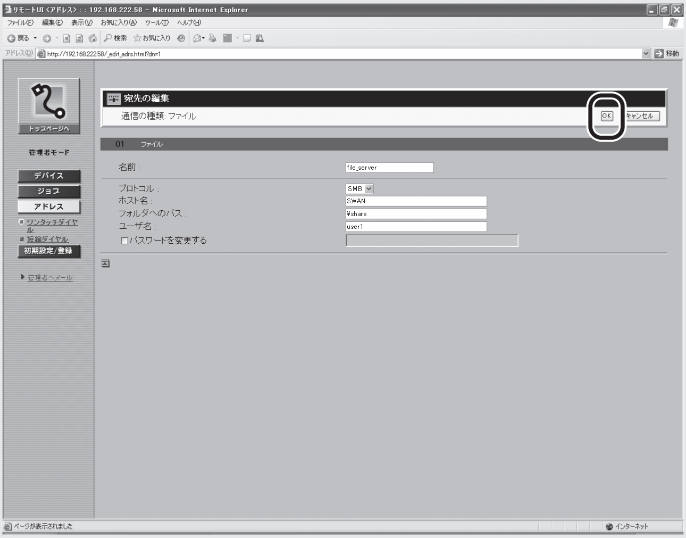
**2.** **登録内容を修正したい場合は、［編集］をクリックします。**



**3.** ［宛先の編集］画面で修正したい項目を設定します。

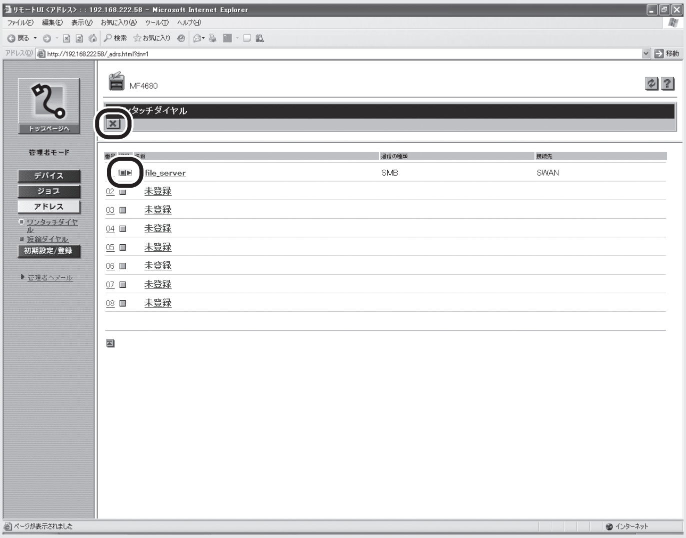


**4.** 内容を確認したら、［OK］をクリックします。



## 登録した宛先を削除するには

1. 削除したい名前の左にあるチェックボックスを選択し、[ ✕ ] をクリックします。
宛先が削除されます。



**メモ**
いったん削除した宛先は元に戻せません。

# ファイルサーバへ送信する

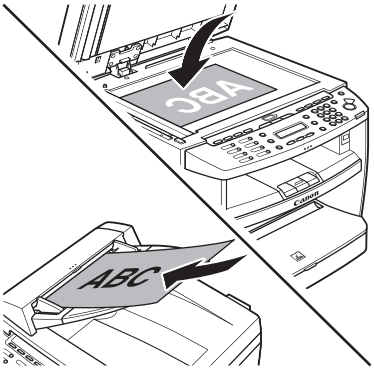
**登録した宛先（ファイルサーバ）に文書を送信してみましょう。**
**正しく設定できていれば、スキャンした文書がファイルとしてファイルサーバの共有フォルダに保存されます。**

メモ

送信されるファイル形式の初期値は、PDF ファイルに設定されています。

**1.** 原稿台ガラスまたは ADF に原稿をセットします。

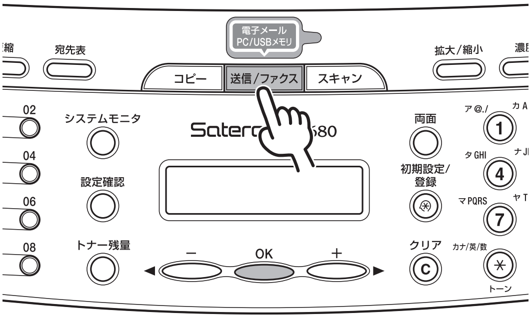
複数原稿をスキャンする場合は、ADF を使ってスキャンしてください。



**2.** **［送信／ファクス］を繰り返し押して、＜デンシメール：カラー＞または＜デンシメール：シロクロ＞を選択し、［OK］を押します。**

メモ

本製品がスリープモードの状態になっている場合、LCD ディスプレイには何も表示されず、［節電］キーがグリーンに点灯しています。その場合、［節電］キーを押し、スリープモードから復帰させてください。



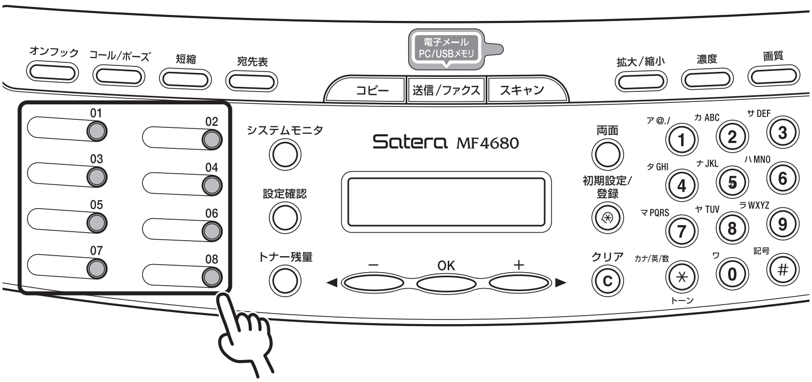
＜デンシメール：カラー＞：カラー画像のファイルを共有フォルダに送信します。
＜デンシメール：シロクロ＞：白黒画像のファイルを共有フォルダに送信します。

**3.** **宛先を登録したワンタッチダイヤル（01 ～ 08）、または短縮ダイヤル（000 ～ 191）を選択します。**

「宛先を登録する（ファイルサーバ）」（→ P.63）で登録したワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルの番号を選択してください。

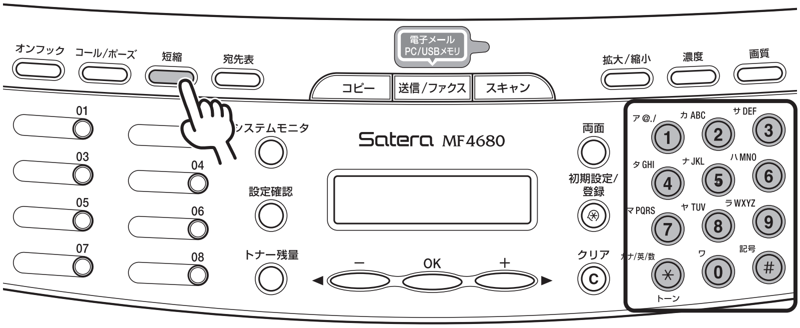
● ワンタッチダイヤルに登録した場合

ワンタッチダイヤルキー（01 ～ 08）を押します。



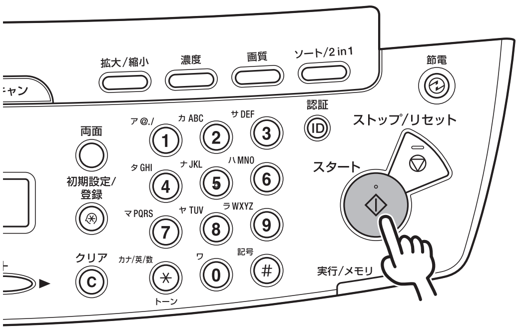
● 短縮ダイヤルに登録した場合

［短縮］を押し、テンキーを使って 3 桁の番号（000 ～ 191）を入力します。




## 4. ［スタート］を押します。

原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、［◄−］または［+►］を押して原稿サイズを選択し、［OK］を押します。




**メモ**

ファイル形式や解像度などを詳細に設定したい場合は、［スタート］の前に［OK］を押します。

文書の読み込み設定の詳細については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 4 章送信と受信『読み込み設定』『画像／原稿の設定を調節する（電子メール／ファイルサーバ送信』」*を参照してください。

## 5. 原稿が読み込まれ、ファイルサーバに送信されます。

Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

**6.** **ファイルサーバに送信されたファイルが保存されているか、確認します。**

エクスプローラなどで送信先の共有フォルダを開きます。読み込まれた原稿が正しく送信されていれば、共有フォルダ内にファイルが保存されています。




### メモ

ファイルは、0001_0001 から連続した番号のファイル名で保存されます。

### ● ファイルが保存されていない場合

- 今まで行ってきた設定が正しいかどうか、再度確認してください。
- エラー送信レポートがプリントされた場合は、エラーコードから原因を調べることができます。詳しくは「困ったときには」の「エラー送信レポートがプリントされた」（→ P.108）を参照してください。

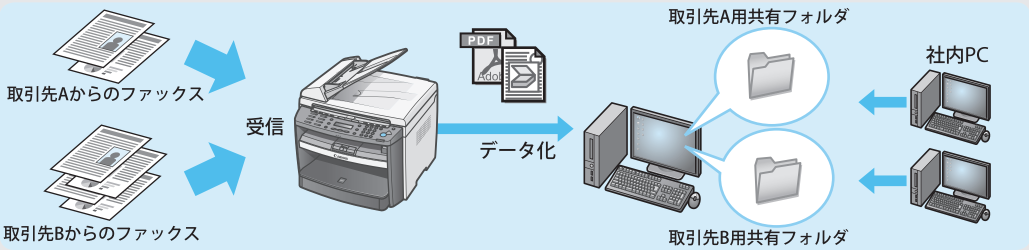
Scan to ファイルサーバ機能を使ってみよう

## 受信したファクスを取引先別にファイルサーバに保存する

複数の取引先から、毎日たくさんのファクスが送られてきます。ファクスを仕分けているときに、こんなことを思ったことはありませんか？

- ファクスの紙代がかさむ
- 取引先からのファクスの仕分が面倒
- 電子化して保存したい

本製品の転送機能と Scan to ファイルサーバ機能を組み合わせて使用すると、受信したファクスをファイルに変換し、直接ファイルサーバの共有フォルダに転送することができます。複数ある取引先の転送条件をそれぞれ設定しておけば、設定した取引先からファクスを受信するたびに指定のフォルダにファイルが保存され、紙代の節約、仕分けにかかる時間の短縮、ファクスの電子化がすべて同時に可能となります。




### 転送条件の設定手順

受信したファクスを指定のフォルダに転送するには、リモート UI から、以下の手順で転送条件を設定します。条件ありの転送条件は 10 件まで登録できます。また、条件なしの転送条件はファクスの種類ごとに 1 件ずつ登録できます。

**メモ**

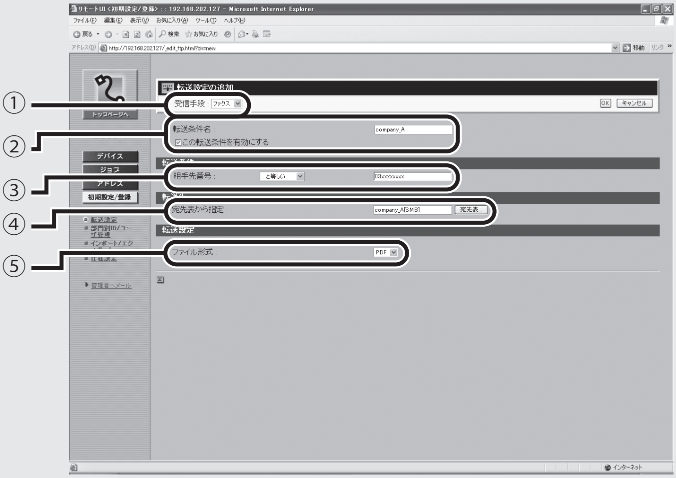
リモート UI の起動方法については「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を、転送設定の詳細については製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 7 章リモート UI『転送の設定をする』」*を参照してください。

**1.** リモート UI を起動します。

**2.** ［初期設定／登録］をクリックし、メニューから［転送設定］を選択します。

**3.** ［ ］（転送設定の追加）をクリックします。

**4.** 以下のように設定します。




| 項目 | 設定値 |
|---|---|
| ①受信手段（必須） | ［ファクス］ |
| ②転送条件名（任意） | company_A |
| ③転送条件（必須） | ［と等しい］03xxxxxxxx |
| ④転送先（必須）* | 「転送先」の欄には、宛先表に登録されている名前が表示されます。<br>宛先表の［フォルダへのパス］に、以下のように入力しておきます。<br>例：¥fax¥copmany_A |
| ⑤ファイル形式（必須） | ［TIFF］または［PDF］ |

* 転送先のフォルダのパスは、あらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。宛先の登録方法については、「宛先を登録する（ファイルサーバ）」（→ P.63）を参照してください。

**5.** ［この転送条件を有効にする］にチェックマークを付け、転送条件を有効にします。

**6.** 設定内容を確認したら、［OK］をクリックします。

# Scan to E-Mail 機能を使ってみよう

**ここでは、Scan to E-Mail 機能を使い、本製品でスキャンした原稿を E-Mail に添付して送付する手順について説明します。**
**Scan to E-Mail 機能を使うには、以下の設定が必要です。**

**Scan to E-Mail 機能に必要な情報を確認する（P.10）**
電子メールソフトの設定を確認しておきます。

↓

**ネットワークケーブルの接続（→ P.14）**
本製品をネットワーク環境に接続します。

↓

**IP アドレスの設定と確認（→ P.15）**
IP アドレスが正しく設定されているかどうかを確認します。

↓

**リモート UI の起動方法の確認（→ P.18）**
本製品の設定を行うための「リモート UI」の起動方法を確認します。

↓

**電子メール送信機能の設定（→ P.77）**
リモート UI を使用して、電子メールを送信するための設定を行います。

↓

**電子メール受信機能の設定（→ P.95）＊**
電子メールを受信するための設定を行います。

＊プロバイダが認証方式に POP before SMTP 認証を採用している場合はこの設定が必要です。認証が必要ない場合や SMTP 認証の場合は、この設定は必要ありません。

↓

**宛先（送信先の電子メールアドレス）の登録（→ P.83）**
リモート UI を使用して、宛先を登録します。

↓

**電子メールの送信（→ P.90）**
実際に、登録した宛先に電子メールを送信してみましょう。

# 電子メールの送信機能を設定する

**ここでは、電子メールの送信に必要なメールサーバやユーザ名、パスワード等の情報を本製品に設定します。**

メモ

設定に必要な項目は、認証方式によって異なります。

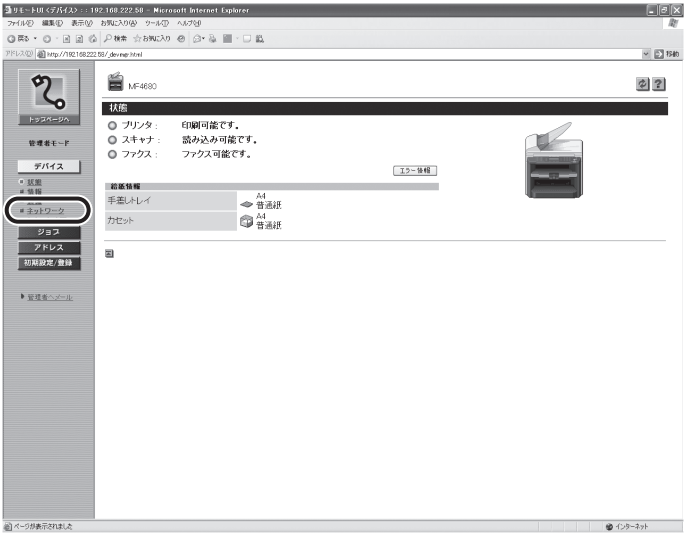
**1.** リモート UI を起動し、管理者モードでログインします。

メモ

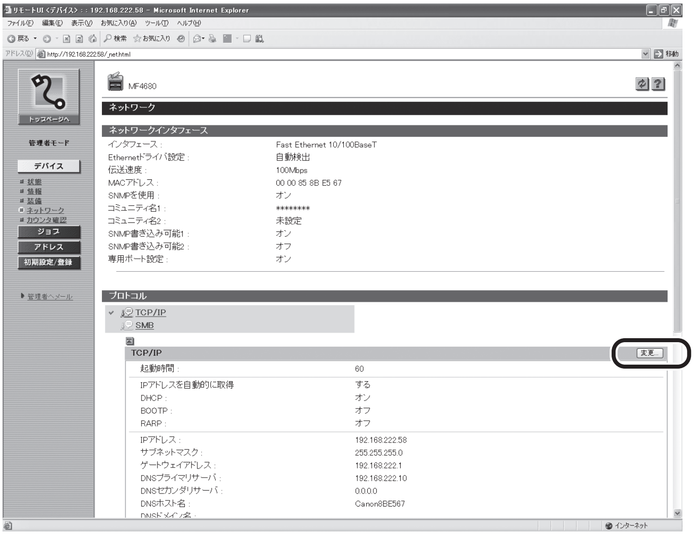
リモート UI の起動方法については、「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を参照してください。

**2.** ［デバイス］の下の［ネットワーク］をクリックします。

［ネットワーク］が表示されていない場合は、［デバイス］をクリックしてください。



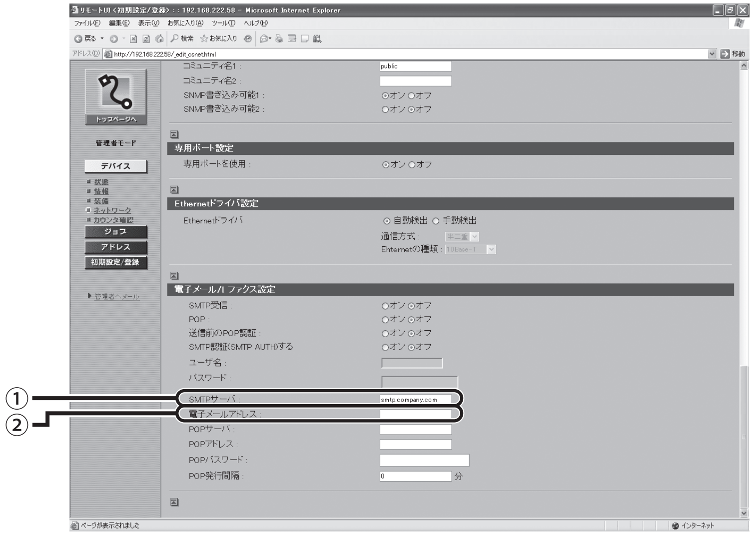
**3.** ［変更］をクリックします。



**4.** スクロールバーを使用して、画面を下にスクロールさせます。



**5.** 電子メールの送信機能を設定します。



① SMTP サーバ（必須）： 巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［SMTP サーバアドレス］を入力します。

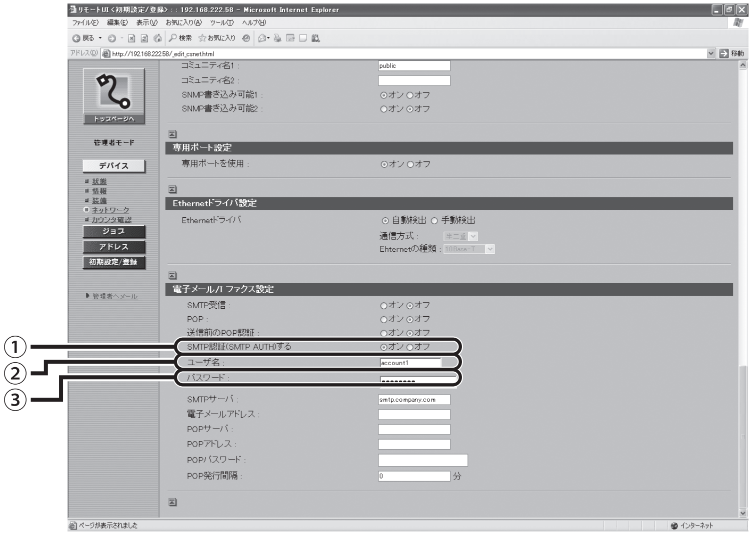
②電子メールアドレス（任意）： 本製品用の電子メールアドレスが設定されている場合は、そのアドレスを入力します。未入力でもかまいません。

**メモ**

メールを送信する際に認証が必要ない場合は、手順 7 に進んでください。

**6.** **認証方法を設定します。**

● SMTP 認証を使用する場合

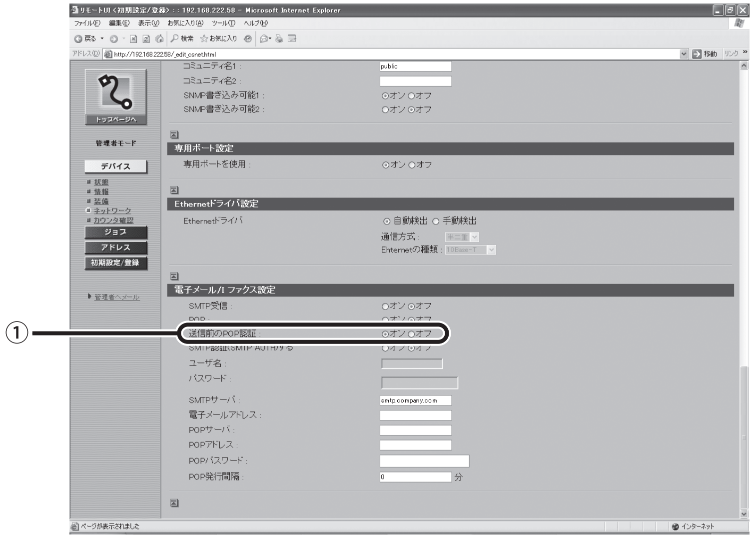



| | |
|---|---|
| ① SMTP 認証（SMTP AUTH）する（必須）： | ［オン］を選択します。 |
| ②ユーザ名（必須）： | 巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［認証方式］の［SMTP ユーザ名］を入力します。 |
| ③パスワード（必須）： | 巻末のチェックシート（→ P.118）にメモした［認証方式］の［SMTP パスワード］を入力します。 |

**SMTP 認証とは**
SMTP サーバでユーザ名とパスワードを確認したあと、電子メールを送信する認証方式です。

● POP before SMTP 認証を使用する場合

プロバイダが認証方式に POP before SMTP 認証を採用している場合は、まず「電子メールを受信するには」(→ P.95) を参照して電子メール受信機能の設定をし、そのあと以下の設定を行ってください。

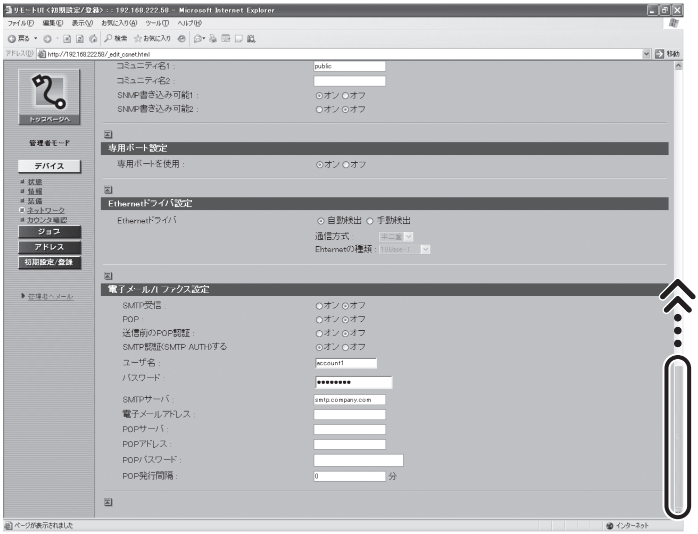


①送信前の POP 認証：［オン］を選択します。

**POP before SMTP とは**

一度 POP サーバにアクセスし、POP アドレスと POP パスワードを確認してから電子メールを送信する認証方式です。

**7.** 設定内容を確認したら、スクロールバーを使用して、画面を上にスクロールさせせます。




**8.** ［OK］をクリックします。




Scan to E-Mail 機能を使ってみよう

**9.** いったん本製品の主電源スイッチを切り、10 秒待ってから再び主電源スイッチを入れてください。

> **重要**
> 設定を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

**以上で、電子メールを送信するための設定が完了しました。**

**次に「宛先を登録する（電子メールアドレス）」（→ P.83）に進んでください。**

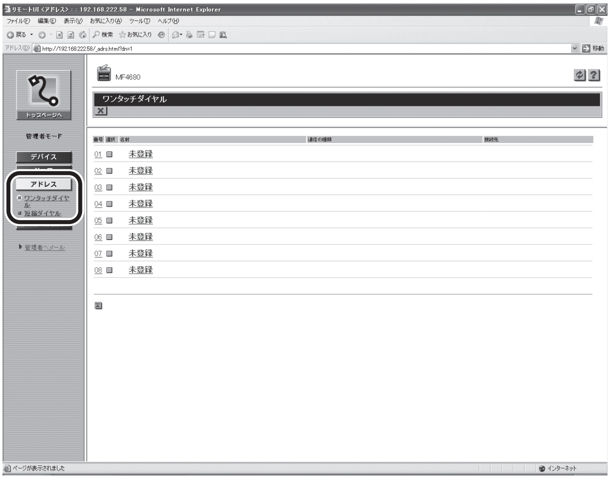
## 宛先を登録する（電子メールアドレス）

**送信先の電子メールアドレスを本製品に登録します。**

**1.** リモート UI を起動し、管理者モードでログインします。

> メモ
> リモート UI の起動方法については、「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を参照してください。

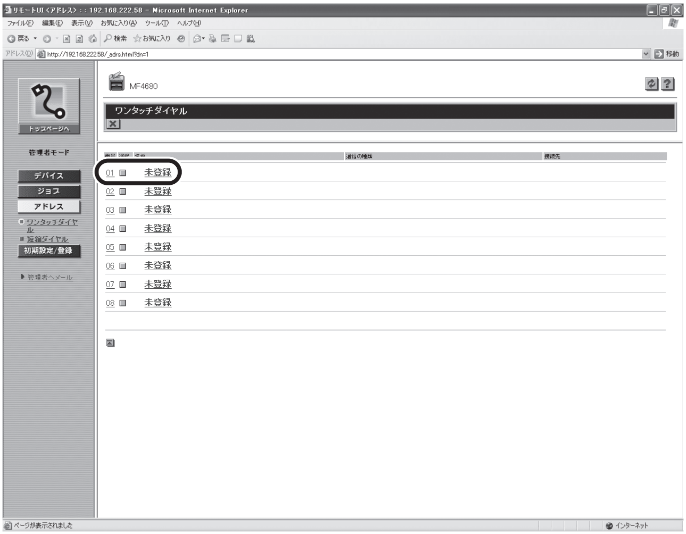
**2.** ［アドレス］をクリックし、メニューから［ワンタッチダイヤル］または［短縮ダイヤル］を選択します。



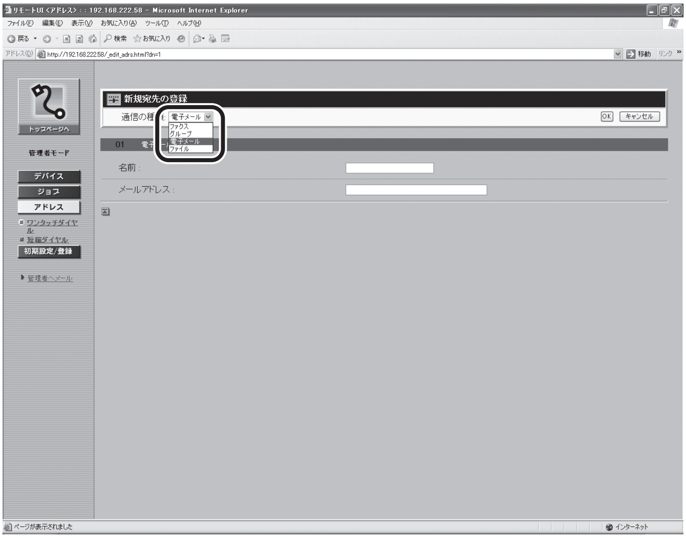
**メモ**

［ワンタッチダイヤル］または［短縮ダイヤル］に宛先を登録すると、本製品の操作パネルのワンタッチダイヤルキーまたは［短縮］キーを使用して、電子メールを送信することができます。

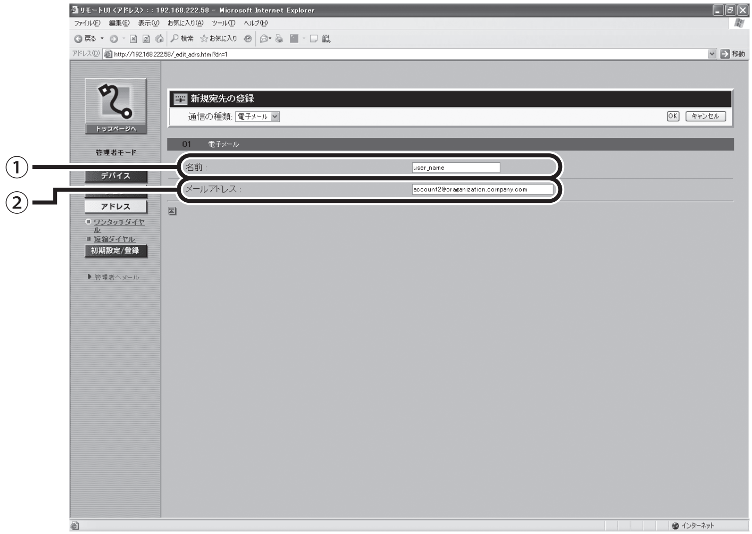
**3.** ［未登録］をクリックします。



**4.** ［通信の種類］から［電子メール］を選択します。

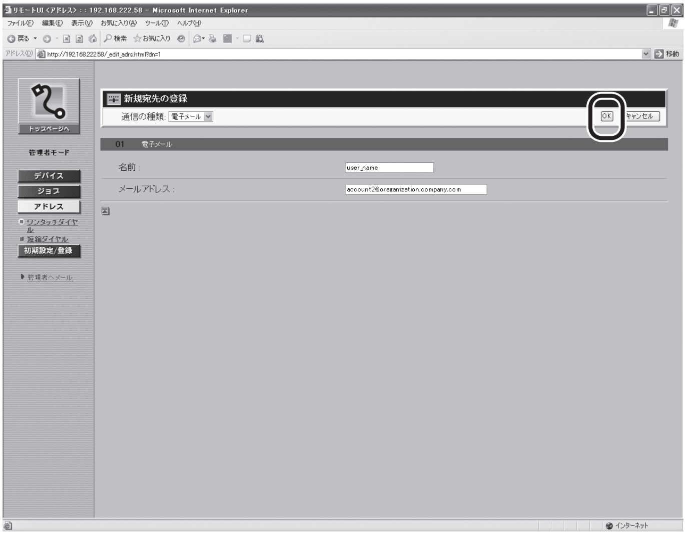


**5.** 以下を入力します。



| | |
|---|---|
| ①名前（任意）： | 送信先の名前を入力します（半角カタカナ、英数字で最大16 文字）。入力した名前が宛先表に表示されます。 |
| ②メールアドレス（必須）： | 送信先の電子メールアドレスを入力します。ここでは、テスト用に自分の電子メールアドレスを入力してください。 |

**6.** 設定内容を確認したら、［OK］をクリックします。



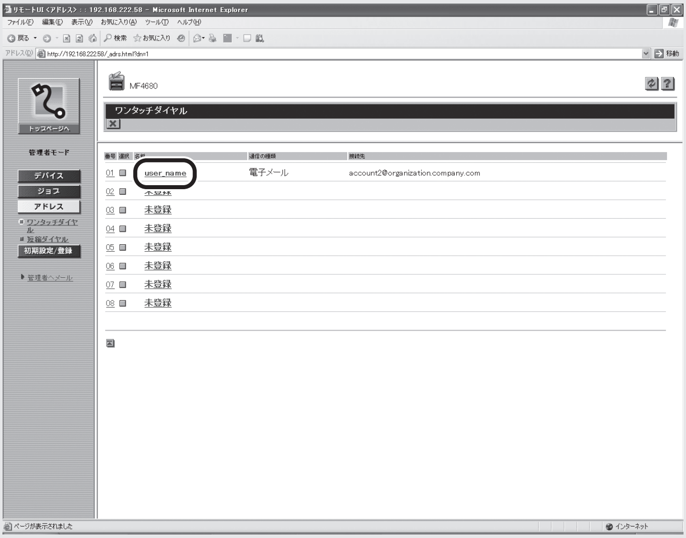
**以上で、宛先の登録が完了しました。**

**次に「電子メールを送信する」（→ P.90）に進んでください。**

## 宛先の登録内容を表示／修正するには

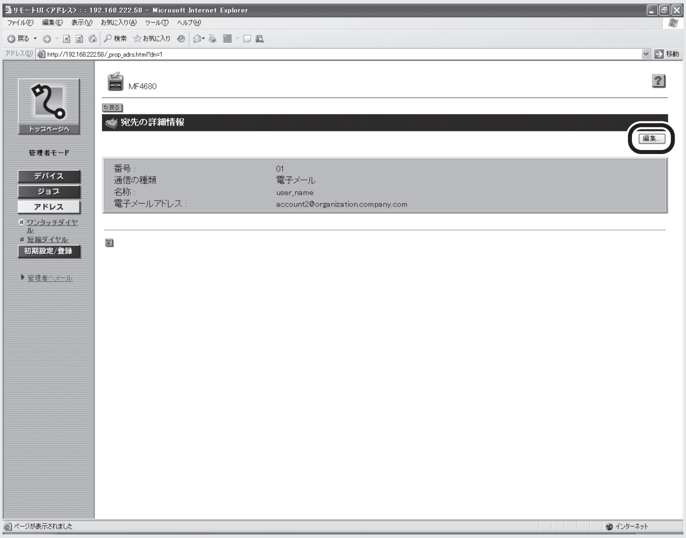
登録した内容に間違いがあった場合は以下の手順で修正します。

**1.** 宛先の登録内容を表示するには、宛先の名前をクリックします。

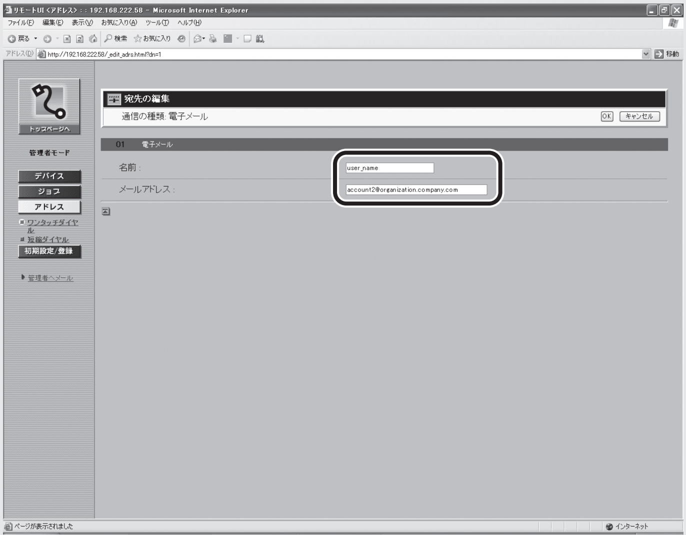


宛先の登録内容が表示されます。

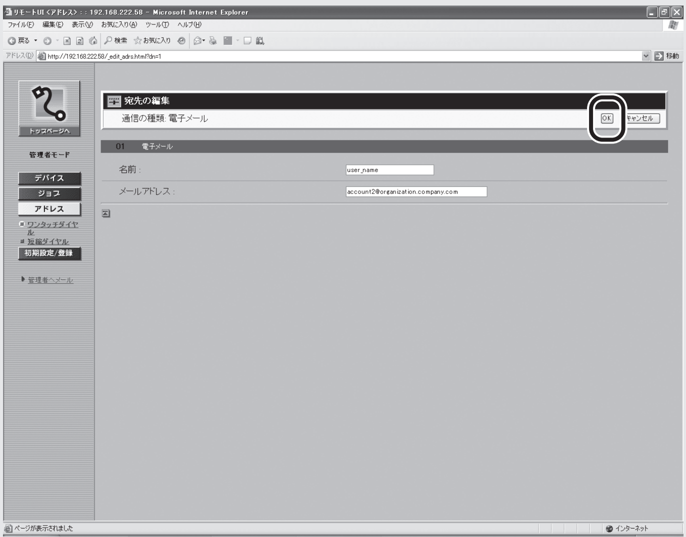
**2.** 登録内容を修正したい場合は、［編集］をクリックします。



**3.** ［宛先の編集］画面で修正したい項目を設定します。

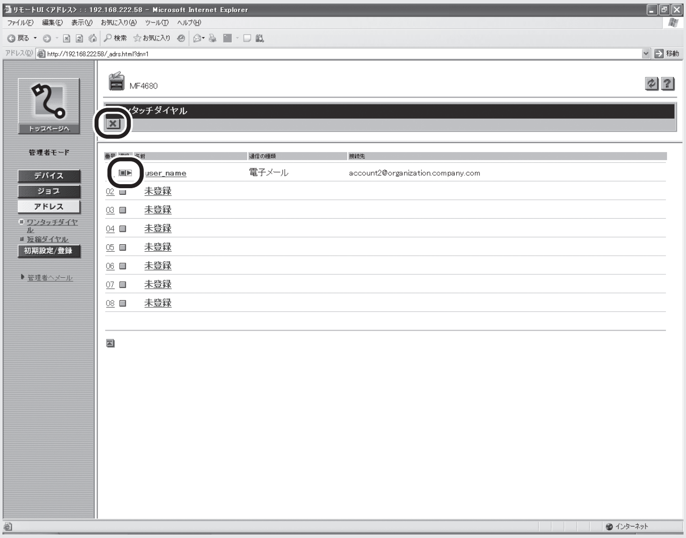



**4.** 内容を確認したら、［OK］をクリックします。



## 登録した宛先を削除するには

**1.** 削除したい名前の左にあるチェックボックスを選択し、[ ✕ ] をクリックします。
宛先が削除されます。



**メモ**
いったん削除した宛先は元に戻せません。

# 電子メールを送信する

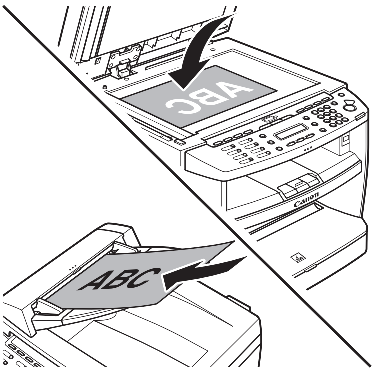
**登録した宛先に電子メールを送信してみましょう。**
**正しく設定できていれば、スキャンした文書がファイルとして電子メールに添付され、送信先に送られます。**

メモ

添付されるファイル形式の初期値は、PDF ファイルに設定されています。

**1.** 原稿台ガラスまたは ADF に原稿をセットします。

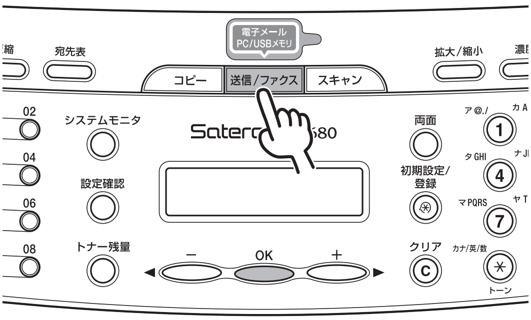
複数原稿をスキャンする場合は、ADF を使ってスキャンしてください。



**2.** ［送信／ファクス］を繰り返し押して、＜デンシメール：カラー＞または＜デンシメール：シロクロ＞を選択し、［OK］を押します。

**メモ**

本製品がスリープモードの状態になっている場合、LCD ディスプレイには何も表示されず、［節電］キーがグリーンに点灯しています。その場合、［節電］キーを押し、スリープモードから復帰させてください。



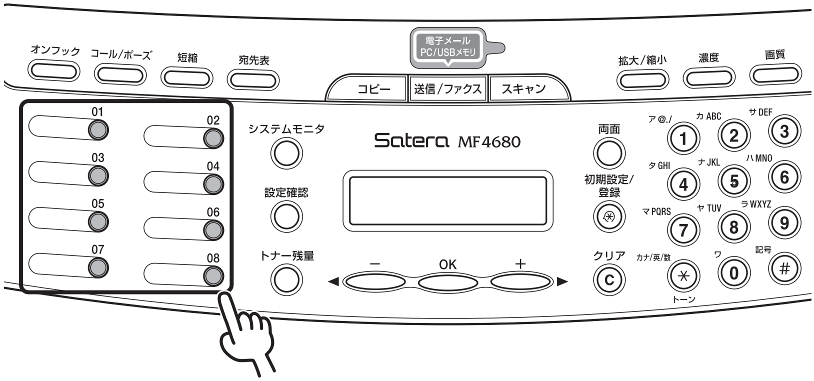

| | |
|---|---|
| ＜デンシメール：カラー＞： | カラー画像のファイルが添付された電子メールを送信します。 |
| ＜デンシメール：シロクロ＞： | 白黒画像のファイルが添付された電子メールを送信します。 |

**3.** 宛先を登録したワンタッチダイヤル（01 ～ 08）、または短縮ダイヤル（000 ～ 191）を選択します。

「宛先を登録する（電子メールアドレス）」（→ P.83）で登録したワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルの番号を選択してください。

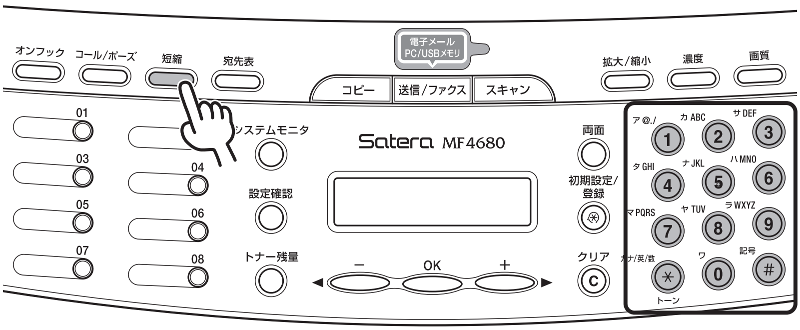
● ワンタッチダイヤルに登録した場合

ワンタッチダイヤルキー（01 ～ 08）を押します。



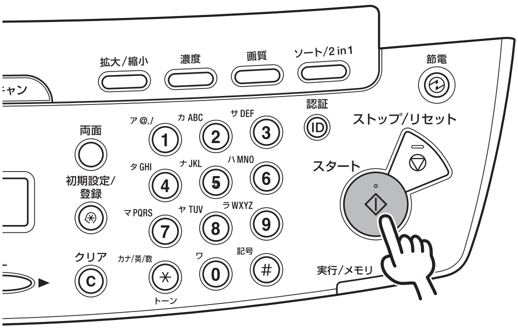

● 短縮ダイヤルに登録した場合

［短縮］を押し、テンキーを使って 3 桁の番号（000 ～ 191）を入力します。



**4.** ［スタート］を押します。

原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、［◄−］または［+►］を押して原稿サイズを選択し、［OK］を押します。




**メモ**

ファイル形式や解像度などを詳細に設定したい場合は、［スタート］の前に［OK］を押します。文書の読み込み設定の詳細については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 4 章送信と受信『読み込み設定』『画像／原稿の設定を調節する（電子メール／ファイルサーバ送信）』」*を参照してください。

**5.** 原稿が読み込まれ、電子メールで送信されます。

Scan to E-Mail 機能を使ってみよう

## 電子メールの受信を確認するには

送信した電子メールが正しく受信できているかどうか、電子メールソフトを使用して確認してみましょう。

正しく受信できている場合は、本製品から電子メールが届きます。送信者欄には、本製品に登録されているユーザ略称が表示されます。




### メモ

- ユーザ略称が本製品に登録されていない場合、送信者欄には P.79 の②で登録した電子メールアドレスが表示されます。
- ユーザ略称、電子メールアドレスのどちらも登録されていない場合、送信者欄には何も表示されません。
- ユーザ略称の登録方法については、*スタートアップガイド「発信元の情報を登録する」*を参照してください。
- 電子メールには、スキャンした原稿がファイルとして添付されています。
- ファイルは、0001_0001 から連続した番号のファイル名で添付されます。

### ● 電子メールを受信できない場合

- 今まで行ってきた設定が正しいかどうか、再度確認してください。
- エラー送信レポートがプリントされた場合は、エラーコードから原因を調べることができます。詳しくは「困ったときには」の「エラー送信レポートがプリントされた」（→ P.108）を参照してください。

## 電子メールを受信するには

プロバイダが電子メール送信時の認証方式に POP before SMTP を採用している場合、または、本製品で電子メールを受信する場合は、本製品の電子メール受信機能を設定する必要があります。設定には、以下の情報が必要です。

**メモ**

- 現在使用している電子メールアカウントを本製品に設定すると、ふだん使っている電子メールソフトではなく、本製品がメールを受信してしまうことがあります。そのため、本製品の電子メール受信機能を使用する場合は、現在使用している電子メールアカウントとは別に、本製品用の電子メールアカウントを設定する必要があります。電子メールアカウントの追加発行については、契約しているインターネットプロバイダ、またはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 本製品が受信できる電子メールは、添付ファイルのないテキスト形式の電子メールです。HTML 形式の電子メールは受信できません。

< 本製品の設定項目 >

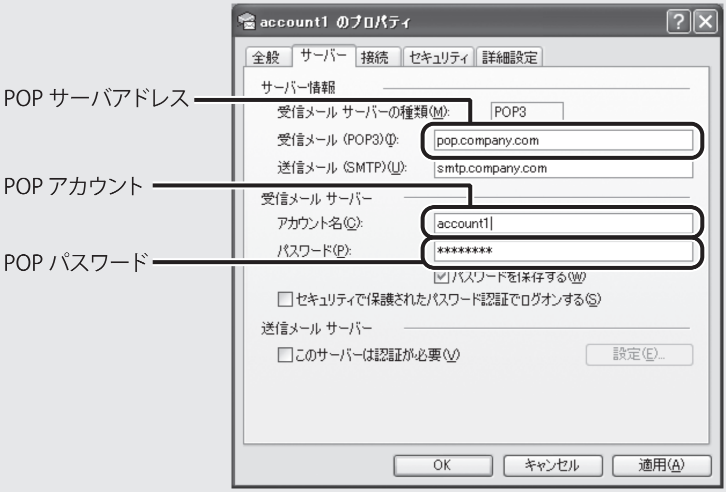
| | |
|---|---|
| POP サーバ | 電子メールを受信する際に使用するサーバアドレスです。SMTP サーバアドレスと同じ場合もあります。 |
| POP アドレス | 電子メールを受信する際に必要なアカウントです。電子メールアカウント、またはメール ID と呼ぶこともあります。 |
| POP パスワード | 電子メールを受信する際に必要なパスワードです。 |

メモ欄

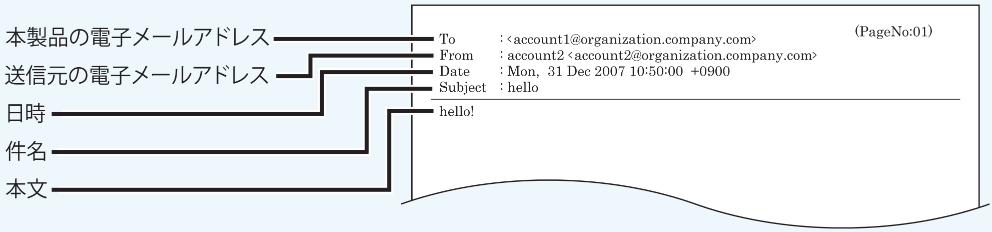
| | |
|---|---|
| POP サーバ | |
| POP アドレス | |
| POP パスワード | |

P.81 のリモート UI の画面で上記の各項目を設定します。

電子メールソフト（Outlook Explress 6.x）で各情報を確認するには、P.11 の手順で［< アカウント名 > のプロパティ］画面を表示し、以下の箇所を参照してください。




**本製品で受信した電子メールは、以下の形式でプリントされます。**



# Scan to USB 機能を使ってみよう

**Scan to USB 機能の使用には、ネットワークの設定は必要ありません。データを保存した USB メモリをお使いのパソコンに接続すれば、複雑なネットワークの設定をすることなく、スキャンした文書を簡単にパソコンに取り込むことができます。**

## Scan to USB 機能を使用する前に

**ファイルシステムが FAT16（最大容量 2GB）、または FAT32（最大容量 8GB）でフォーマットされた USB メモリをご用意ください。**
**ただし、以下のような USB メモリ、または使用方法はサポートしていませんので、ご注意ください。**

- セキュリティ機能付きの USB メモリ
- USB 規格に準拠していない USB メモリ
- メモリカードリーダを USB メモリとして使用
- 延長ケーブルで接続した USB メモリ
- USB ハブを経由した USB メモリ
- その他、上記以外でも、お使いの USB メモリによっては画像を正しく保存できないことがあります。

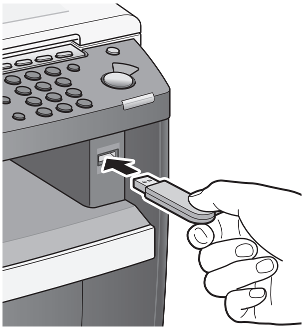
## USB メモリに文書を保存する

**USB メモリにスキャンした文書をファイルとして保存する手順は、以下のとおりです。**

メモ

保存されるファイル形式の初期値は、PDF ファイルに設定されています。

**1.** **USB メモリを本体前面の USB メモリポートに接続します。**

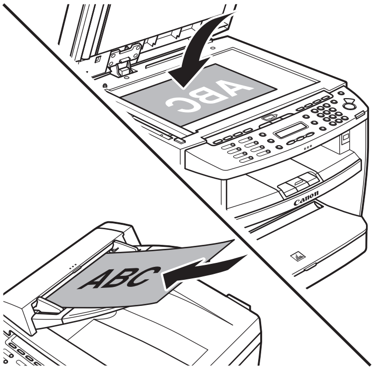


**重要**

USB メモリを USB メモリポートに接続する際には、まっすぐ差し込んでください。斜めに差し込んだり、USB 規格に準拠しない形状の USB メモリを差し込んだりすると、USB メモリポートが破損する可能性があります。

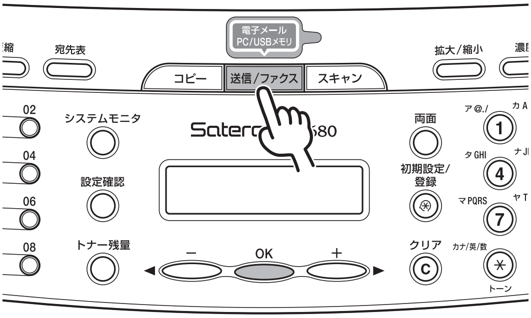
**2.** **原稿台ガラスまたは ADF に原稿をセットします。**

複数原稿をスキャンする場合は、ADF を使ってスキャンしてください。



**3.** ［送信／ファクス］を繰り返し押して、＜ USB メモリ：シロクロ＞または＜ USB メモリ：カラー＞を選択し、［OK］を押します。

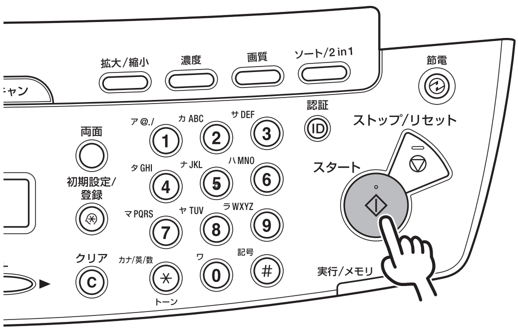
> **メモ**
>
> 本製品がスリープモードの状態になっている場合、LCD ディスプレイには何も表示されず、［節電］キーがグリーンに点灯しています。その場合、［節電］キーを押し、スリープモードから復帰させてください。




＜ USB メモリ：カラー＞：　カラー画像のファイルを USB メモリに送信します。
＜ USB メモリ：シロクロ＞：　白黒画像のファイルを USB メモリに送信します。

**4.** ［スタート］を押します。

原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、［◄－］または［+►］を押して原稿サイズを選択し、［OK］または［スタート］を押します。




> **メモ**
>
> ファイル形式や解像度などを詳細に設定したい場合は、［スタート］の前に［OK］を押します。文書の読み込み設定の詳細については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 5 章プリントとスキャン『USB メモリにスキャン画像を保存する』『読み込み設定』」*を参照してください。

Scan to USB 機能を使ってみよう

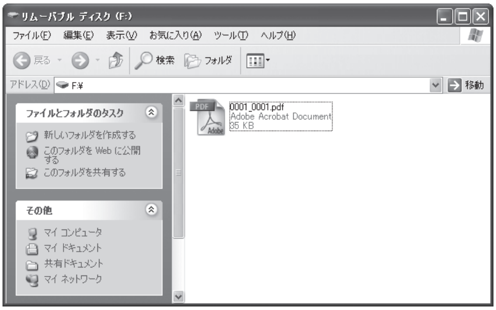
**5.** ＜ホゾンシマシタ／ USB メモリヲ　ヌクコトガデキマス＞が表示されたら、USB メモリを本製品から抜きます。

> **メモ**
>
> USB メモリにファイルを保存できなかった場合は、＜カキコミニ　シッパイシマシタ／メディアヲ　カクニンシテクダサイ＞と表示されることがあります。この場合、セキュリティ機能付きの USB メモリなどを使用していないか確認してください。本製品で使用可能な USB メモリについては、「Scan to USB 機能を使用する前に」（→ P.97）を参照してください。

**6.** USB メモリを、お使いのパソコンの USB ポートに接続します。

**7.** USB メモリにファイルが保存されているか確認します。

エクスプローラなどを使用して、USB メモリのルートディレクトリを開くと、スキャンした文書がファイルとして保存されています。




> **メモ**
>
> ファイルは、0001_0001 から連続した番号のファイル名で保存されます。

### ● ファイルが保存されない場合

- ディスプレイにエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージから原因を調べることができます。エラーメッセージの詳細については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 10 章困ったときには『ディスプレイの表示』」*を参照してください。
- エラー送信レポートがプリントされた場合は、エラーコードから原因を調べることができます。詳しくは「困ったときには」の「エラー送信レポートがプリントされた」（→ P.108）を参照してください。

# 困ったときには

## ネットワークに接続できない

**通信速度、通信方式の設定は正しいですか？**
接続するルータやハブによっては、本製品の通信速度、通信方式の設定が必要になることがあります。設定方法については、製品付属のCD-ROMに収録されている*操作ガイド（総合編）「第6章ネットワーク『ネットワーク環境で使用するために必要な作業』『インタフェースの設定』」*を参照してください。

## リモートUIを起動できない

**アドレスバーに入力したIPアドレスは正しいですか？**
DHCPで本製品にIPアドレスを割り当てている場合、本製品やルータ（DHCPサーバ）を再起動すると、本製品に割り当てられるIPアドレスが変わってしまうことがあります。
そのため、ウェブブラウザのアドレスバーに以前入力したIPアドレスを入力しても、リモートUIを起動できないことがあります。このような場合は、以下を試してみてください。

- P.15の手順で本製品のIPアドレスを確認し、そのIPアドレスをウェブブラウザのアドレスバーに入力してリモートUIを起動する。
- DHCP環境下でも本製品に割り当てるIPアドレスを固定するように、ルータ（DHCPサーバ）の設定を変更する。
  お使いのルータによっては、DHCP環境下でもIPアドレスを固定できる「手動割り当て」機能や「固定割り当て」機能など（ルータのメーカによって機能名は異なります）を持つものがあります。この機能を使用すると、本製品の再起動後もIPアドレスが変わらないようにすることができ、本製品を起動するごとにIPアドレスを確認する必要がありません。設定方法については、ルータのマニュアルを確認するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 電子メールを送信したが、送信先で受信できない

**本製品に登録した送信先の電子メールアドレスは正しいですか？**
ピリオドなどが正しく入っているか、登録した電子メールアドレスを確認してください。

## 電子メールの設定を忘れてしまった

SMTPサーバアドレス、POPサーバアドレスの設定を忘れた場合は、お使いの電子メールソフトを使用して設定を確認することができます。詳細については「電子メールアカウントを確認する」（→P.11）を参照してください。

## 本製品のディスプレイにエラーメッセージが表示された

ディスプレイにエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージから原因を調べることができます。エラーメッセージの詳細については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 10 章困ったときには『ディスプレイの表示』」*を参照してください。

## 共有フォルダにファイルを保存できない

共有フォルダの設定を正しく行っていても、共有フォルダにファイルを保存できない場合は、以下の設定を確認してください。

### NetBIOS over TCP/IP を有効にする

NetBIOS over TCP/IP はファイル共有を使用するために必要なプロトコルです。
NetBIOS over TCP/IP が無効になっていると、ファイル共有ができない場合があります。
この場合、以下の手順で NetBIOS over TCP/IP を有効にします。

**● Windows XP の場合**

1. ［スタート］メニューの［マイネットワーク］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。
2. ［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックし、［プロパティ］を選択します。
3. ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をダブルクリックし、［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］画面を表示します。
4. ［全般］ページの［詳細設定］ボタンをクリックし、［TCP/IP 詳細設定］画面を表示します。
5. ［WINS］タブをクリックし、［WINS］ページを表示します。

**6.** ［NetBIOS over TCP/IP を有効にする］を選択します。




**7.** ［OK］ボタンを繰り返しクリックし、画面を閉じます。

**8.** 必要に応じてパソコンを再起動します。

## ● Windows Vista の場合

**1.** ［スタート］メニューの［ネットワーク］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。

**2.** ［ネットワーク接続の管理］をクリックします。

**3.** ［ローカルエリア接続］アイコンを右クリックし、［プロパティ］を選択します。

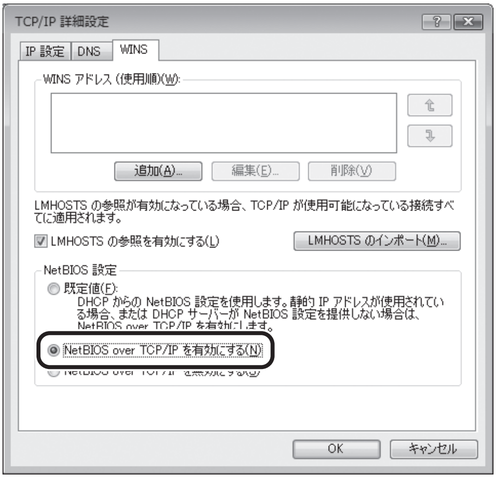
> メモ
> Windows Vista で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、［続行］ボタンをクリックしてください。

**4.** ［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）］をダブルクリックし、［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）のプロパティ］画面を表示します。

**5.** ［全般］ページの［詳細設定］ボタンをクリックし、［TCP/IP 詳細設定］画面を表示します。

**6.** ［WINS］タブをクリックし、［WINS］ページを表示します。

**7.** ［NetBIOS over TCP/IP を有効にする］を選択します。




**8.** ［OK］ボタンを繰り返しクリックし、画面を閉じます。

**9.** 必要に応じてパソコンを再起動します。

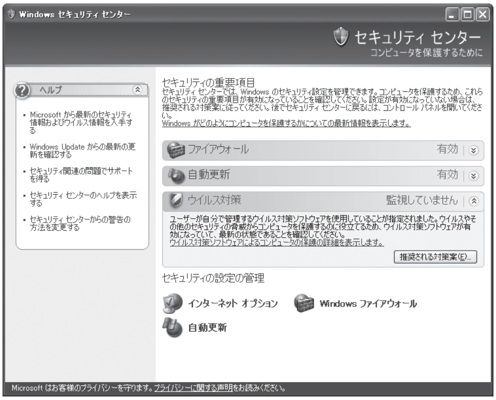
## Windows ファイアウォールについて

Windows XP に Service Pack 2 がインストールされている場合や Windows Vista をお使いの場合、Windows ファイアウォールを有効にすると、設定によってはファイル共有を使用できないことがあります。
この場合、以下の手順でファイル共有を使用できるようにしてください。

### ● Windows XP Service Pack 2 の場合

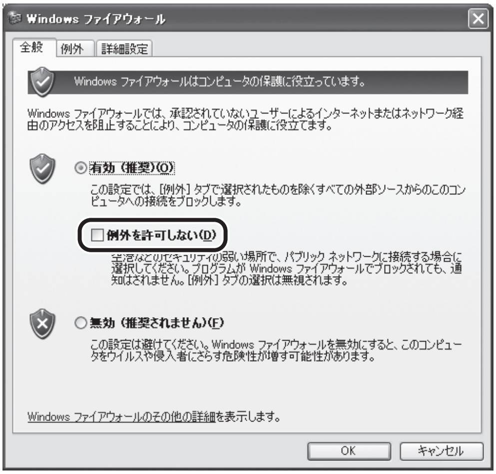
**1.** ［スタート］メニューの［コントロールパネル］を選択し、［コントロールパネル］画面を表示します。

**2.** 「セキュリティセンター」をクリックし、［セキュリティセンター］画面を表示します。



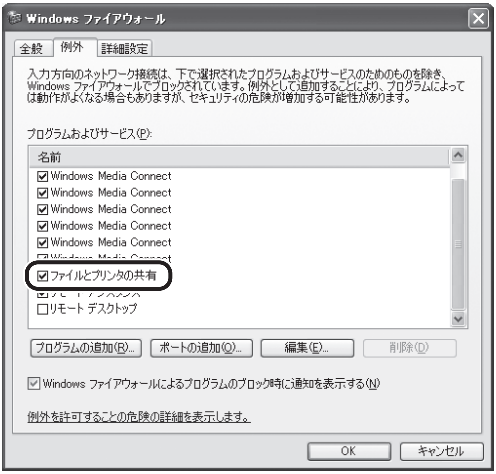

**3.** ［セキュリティ設定の管理］の［Windows ファイアウォール］をクリックし、［Windows ファイアウォール］画面を表示します。

**4.** ［例外を許可しない］にチェックマークが付いている場合は、チェックマークをはずします。




**5.** ［例外］タブをクリックして、［例外］ページを表示します。

6. ［プログラムおよびサービス］の［ファイルとプリンタの共有］にチェックマークが付いていない場合は、チェックマークを付けます。



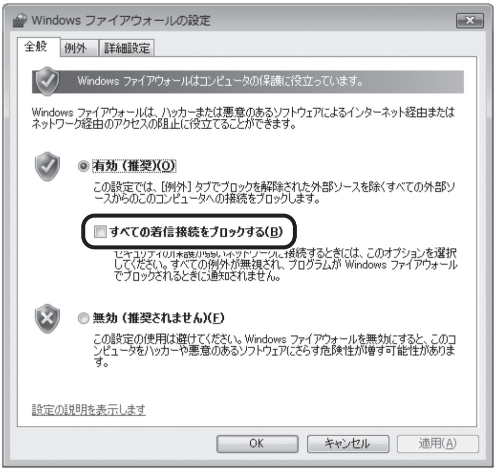

7. ［OK］ボタンをクリックして、［Windows ファイアウォール］画面を閉じます。

## ● Windows Vista の場合

1. ［スタート］メニューの［コントロールパネル］を選択し、［コントロールパネル］画面を表示します。

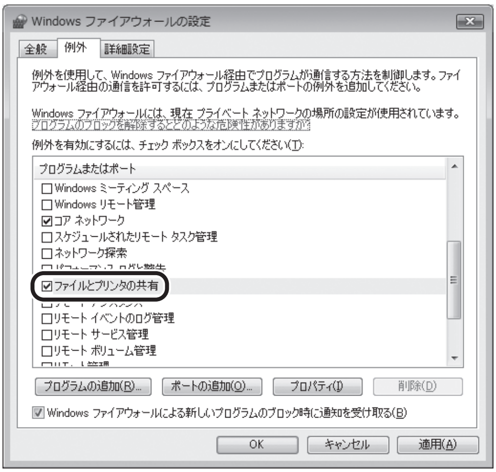
2. ［セキュリティ］の［Windows ファイアウォールによるプログラムの許可］をクリックし、［Windows ファイアウォール］画面を表示します。

**3.** ［全般］ページで［すべての着信接続をブロックする］にチェックマークが付いている場合は、チェックマークをはずします。




**4.** ［例外］タブをクリックして、［例外］ページを表示します。

**5.** ［プログラムまたはポート］の［ファイルとプリンタの共有］にチェックマークが付いていない場合は、チェックマークを付けます。




**6.** ［OK］ボタンをクリックして、［Windows ファイアウォール］画面を閉じます。

## エラー送信レポートがプリントされた

何らかの原因でファイルサーバへの送信、電子メール送信、USB メモリへの保存ができなかった場合は、エラー送信レポートがプリントされます。
エラー送信レポートには、下記のように 4 桁のエラーコードが記載されています。

2007 12/31 10:50 FAX 123XXXXXX　　CANON　　0001

************************
***　ｴﾗｰ送信ﾚﾎﾟｰﾄ　***
************************

次の送信はｴﾗｰ終了しました

| | |
|---|---|
| 受付番号 | 0005 |
| 部門ID | 0000001 |
| 相手先ｱﾄﾞﾚｽ | 111XXXXX |
| 相手先略称 | account2@organization.comapny.com |
| 開始時刻 | 12/31 10:50 |
| 通信時間 | 00'00 |
| 枚数 | 0 |
| 通信結果 | NG　# 0802 |

エラーコード

各エラーコードの原因と対処は、以下の表を参照してください。
「種類」欄のアイコンは、エラーコードを機能別に示したものです。

F ：Scan to ファイルサーバ機能関連のエラー

E ：Scan to E-Mail 機能関連のエラー

U ：Scan to USB 機能関連のエラー

### メモ

- 表中の設定項目（[SMTP サーバ］や［POP パスワード］など）は、リモート UI の［ネットワーク設定画面］または［システム管理設定の編集］画面で確認ができます。
- ［ネットワーク設定］画面を表示するには、リモート UI を起動し、［デバイス］→［ネットワーク］→［変更］の順にクリックします。
- ［システム管理設定の編集］画面を表示するには、リモート UI を起動し、［初期設定／登録］→［システム管理］→［編集］の順にクリックします。
- リモート UI の起動方法については、「リモート UI の起動方法」（→ P.19）を参照してください。
- 本書では、Scan to ファイルサーバ機能、Scan to E-Mail 機能および Scan to USB 機能に関するエラーコードを記載しています。その他のエラーコードについては、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 10 章困ったときには『エラーコード』」*を参照してください。

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0401 | U | USB メモリのデータ容量がいっぱいか、ルートディレクトリ（USB メモリ内の一番上の階層）に保存できるファイル数が上限値に達しました。 | USB メモリ内の不要なファイルを削除する、またはフォルダを作成して既存のファイルを移動するなどして、ルートディレクトリ上のファイルを整理してください。 |
| #0403 | U | 保存するスキャン画像と同じ名前のファイルが、USB メモリ内に存在しています。 | USB メモリ内にあるファイル名を変更してください。 |
| #0406 | U | USB メモリにスキャン画像を保存する際に、何らかのエラーが発生しました。原因として USB メモリが抜けた、または接続している USB メモリがサポート外のファイルシステムでフォーマットされている可能性があります。 | USB メモリが正しく接続されているか、USB メモリが本製品で対応しているファイルシステム（FAT16 または FAT32）でフォーマットされているかを確認してください。確認後、もう一度操作をしてみてください。 |
| #0703 | F E | メモリの画像領域がいっぱいになり、書き込みできません。 | －ファクスを送信中の場合は、送信ジョブが終了するまでしばらく待ち、もう一度送信してみてください。<br>－メモリに保存されているジョブを削除してください。ジョブの削除方法については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 4 章送信と受信『メモリ内の送受信ジョブを確認／操作する』『送受信中または送信待機中のジョブを確認／削除する』」*を参照してください。<br>－それでも正常に動作しない場合は、本製品の主電源スイッチを入れなおしてください。 |

困ったときは

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0705 | E | 画像データサイズが送信データサイズ上限値よりも大きいため、送信処理を中断しました。 | ー リモート UI を起動して［システム管理設定の編集］画面を表示し、［通信管理設定］の［電子メール設定］を以下のように設定してください。<br>　ー［送信データサイズ上限値］の値を高く設定しなおしてください。<br>　ー［サイズ上限オーバー時の分割送信する］にチェックマークを付けて、画像データを分割するように設定してください。<br>ー 低解像度で送信しなおしてください。設定については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 4 章送信と受信『読み込み設定』『画像／原稿の設定を調節する（電子メール／ファイルサーバ送信）』』*」を参照してください。 |
| #0752 | E | ー 電子メール／I ファクスの SMTP サーバ名の設定が間違っています。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール/I ファクス設定］の［SMTP サーバ］（→ P.79）と、「電子メールアカウントを確認する」（→ P.11）で確認した SMTP サーバアドレスが合っているか確認してください。 |
| | | ー ドメイン名、電子メールアドレスが設定されていません。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［TCP/IP 設定］の［DNS ドメイン名］が正しく設定されているか確認してください。<br>ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［電子メールアドレス］が正しく設定されているか確認してください。 |

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0752 | E | ー メールサーバが立ち上がっていません。<br><br>ー ネットワークがつながっていません。<br><br>ー 原稿をカラーで電子メール送信するときに、何らかのエラーが発生しました。 | ー メールサーバが正常に動作しているか、ネットワーク管理者に確認してください。<br><br>ー ネットワークが正常に動作しているか、ネットワーク管理者に確認してください。<br><br>ー 何度か送信をやりなおしてください。それでも送信できない場合は、ネットワークが正常に動作しているか、ネットワーク管理者に確認してください。 |
| #0753 | F E | ファイル送信時、または電子メールの送信時に TCP/IP でのエラーが発生しました。（Socket、Select エラーなど。） | ー［SMB クライアントを使用］が［オン］になっているか確認してください。（→ P.59）<br>ー 宛先の［ホスト名］が正しく設定されているか確認してください。（→ P.65）<br>ー［ワークグループ名］が正しく設定されているか確認してください。（→ P.60）<br>ー「LM アナウンスを使用」を［オン］に設定してみてください。（→ P.61）<br>ー Windows ファイアウォールの設定を確認してください。（→ P.104）<br>ー 上記をすべて確認しても正常に動作しない場合は、本製品の主電源スイッチを入れなおしてください。 |
| #0755 | F E | ー TCP/IP が正しく動作していないため送信できません。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［TCP/IP 設定］の各項目が正しく設定されているか確認してください。 |

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0755 | F E | ー IP アドレスが設定されていません。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［TCP/IP 設定］の各項目が正しく設定されているか確認してください。 |
| | | ー 本製品の立ち上げ時に、DHCP、RARP、BOOTP のいずれかで IP アドレスの割り当てが行われていません。 | ー 本製品が起動してからネットワークに接続するまで約 1 分かかります。本製品の起動後、1 分以上待ってから、もう一度送信してください。 |
| #0801 | F E | ー 電子メールの送信のため SMTP サーバと通信している際に、メールサーバ側の要因でタイムアウトエラーが発生しました。 | ー メールサーバが正常に動作しているか、ネットワークが正常に動作しているかを、ネットワーク管理者に確認してください。 |
| | | ー SMTP 接続中に SMTP サーバからエラーが返ってきました。宛先の設定が正しくありません。 | ー 宛先の設定を確認してください。 |
| | | ー ファイルサーバへ送信しているときに、サーバ側の要因でエラーが発生しました。 | ー ファイルサーバが正常に動作しているかを確認してください。 |
| | | ー 電子メールアドレスの設定が正しくありません。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［電子メールアドレス］が正しく設定されているか確認してください。 |
| #0802 | E | ー SMTP サーバ名の設定が間違っています。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［SMTP サーバ］（→ P.79）と、「電子メールアカウントを確認する」（→ P.11）で確認した SMTP サーバアドレスが合っているか確認してください。 |
| | | ー DNS サーバのドメイン名が間違っています。 | ー リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［TCP/IP 設定］の［DNS ドメイン名］が正しく設定されているか確認してください。 |

困ったときには

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0802 | E | －DNS サーバ名の設定が間違っています。<br>－DNS サーバとの接続ができませんでした。 | －リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［TCP/IP 設定］の［DNS プライマリサーバ］と［DNS セカンダリサーバ］が正しく設定されているか確認してください。<br>－DNS サーバが正常に動作しているかを、ネットワーク管理者に確認してください。 |
| #0804 | F | フォルダへのアクセス権がありません。 | 宛先に登録したユーザ名とパスワードが、パソコン（ファイルサーバ）に登録したユーザアカウント（ユーザ名とパスワード）と一致しているか確認してください。 |
| #0806 | F E | －ファイルサーバ送信時に指定されたユーザ名、あるいはパスワードが間違っています。<br>－電子メール送信時に指定した宛先が間違っています。 | －宛先に登録したユーザ名とパスワードが、パソコン（ファイルサーバ）に登録したユーザアカウント（ユーザ名とパスワード）と一致しているか確認してください。<br>－登録した電子メールの宛先を確認してください。 |
| #0810 | E | －POP サーバとの接続中に POP サーバからエラーが返ってきました。<br>－POP サーバとの接続中にサーバ側の要因でタイムアウトエラーが発生しました。 | －リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［POP サーバ］と、「電子メールを受信するには」( → P.95) で確認した POP サーバアドレスが合っているか確認してください。<br>－メールサーバが正常に動作しているか、ネットワークが正常に動作しているかを、ネットトーク管理者に確認してください。 |

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0812 | E | POP パスワードの設定が間違っています。 | リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール/I ファクス設定］の［POP パスワード］に POP パスワードを正しく入力してください。<br>POP パスワードは、契約しているプロバイダから発行された設定通知書などで確認するか、またはネットワーク管理者に問い合わせてください。 |
| #0813 | E | POP サーバ名の設定が間違っています。 | リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール/I ファクス設定］の［POP サーバ］と、「電子メールを受信するには」(→ P.95) で確認した POP サーバアドレスが合っているか確認してください。 |
| #0816 | F E U | 部門 ID に割り当てられている制限面数以上のスキャンを行いました。 | 部門 ID に割り当てられている制限面数の上限を変更するか、またはカウント情報を消去してください。設定については、製品付属の CD-ROM に収録されている*操作ガイド（総合編）「第 8 章システム管理設定『部門別 ID 管理を設定する』」*を参照してください。 |
| #0819 | E | 扱えないデータを受信しました。（MIME 情報が不正です。） | 送信者に、電子メール設定の確認と再送信を依頼してください。<br>本製品が受信できる電子メールは、添付ファイルのないテキスト形式の電子メールです。HTML 形式の電子メールは受信できません。 |
| #0820 | E | 扱えないデータを受信しました。（BASE64 または uuencode が不正です。） | 送信者に、電子メール設定の確認と再送信を依頼してください。<br>本製品が受信できる電子メールは、添付ファイルのないテキスト形式の電子メールです。HTML 形式の電子メールは受信できません。 |
| #0821 | E | 扱えないデータを受信しました。（TIFF 解析エラーが発生しました。） | 送信者に、電子メール設定の確認と再送信を依頼してください。 |

| エラーコード | 種類 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| #0827 | E | 扱えないデータを受信しました。（サポート外の MIME 情報があります。） | 送信者に、電子メール設定の確認と再送信を依頼してください。<br>本製品が受信できる電子メールは、添付ファイルのないテキスト形式の電子メールです。HTML 形式の電子メールは受信できません。 |
| #0828 | E | HTML のデータを受信しました。 | HTML 形式ではなく、テキスト形式で電子メールを再送信するよう、送信者に依頼してください。<br>本製品が受信できる電子メールは、添付ファイルのないテキスト形式の電子メールです。HTML 形式の電子メールは受信できません。 |
| #0829 | E | メモリの許容量を超えるデータを受信しました。 | メモリに受信した原稿をプリントしてください。そのあと、電子メールを再送信するよう、送信者に依頼してください。 |
| #0839 | E | SMTP 認証で使用するユーザ名とパスワード設定が間違っています。 | －リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［SMTP サーバ］（→ P.79）と、「電子メールアカウントを確認する」（→ P.11）で確認した SMTP サーバアドレスが合っているか確認してください。<br>－リモート UI を起動して［ネットワーク設定］画面を表示し、［電子メール /I ファクス設定］の［パスワード］に SMTP 認証のためのパスワードを正しく入力してください（→ P.80）。SMTP 認証のためのパスワードは、契約しているプロバイダから発行された設定通知書などで確認するか、またはネットワーク管理者に問い合わせてください。 |

# 索引


## アルファベット

### D
DHCP 8

### I
IP アドレス 15

### L
LM アナウンスを使用 61, 111

### N
NetBIOS over TCP/IP 102

### O
OS
  必要な OS（Scan to ファイルサーバ機能）9
  必要な OS（リモート UI）18

### P
POP before SMTP 10, 81
POP アドレス 95
POP サーバ 10
POP サーバアドレス 95
POP パスワード 95

### S
Scan to E-Mail 機能
  概要 4
  設定の手順 6, 76
  必要な情報 10
Scan to USB 機能 5, 97
Scan to ファイルサーバ機能
  概要 4
  設定の手順 6, 21
  必要な OS 9
SEND Lite 機能 4, 6, 21, 76
SMB クライアントを使用 59
SMTP サーバ 10, 12, 79
SMTP サーバアドレス 10, 12
SMTP 認証 10, 80, 81
SMTP パスワード 80
SMTP ユーザ名 80

### U
USB メモリ
  使用可能な USB メモリ 97
  文書を保存する 97
USB メモリポート 98

## かな

### あ
アクセス許可
  ネットワークのアクセス許可 46, 55
  ローカルのアクセス許可 50, 55
アクセス制限をしない共有フォルダ 28, 30
アクセス制限をする共有フォルダ 29, 37
宛先
  削除する 69, 89
  修正する 67, 87
  選択する 71, 92
  登録する（電子メールアドレス）83
  登録する（ファイルサーバ）63
  表示する 67, 87

### う
ウェブブラウザ 18

### え
エラーコード 108
エラー送信レポート 108
エラーメッセージ 102

### か
カキコミニ シッパイシマシタ／メディアヲ カクニンシテクダサイ 100
簡易ファイル共有 30, 37

### き
共有フォルダ
  アクセス制御をしない共有フォルダ 28, 30
  アクセス制御をする共有フォルダ 29, 37
  作成する 30, 44, 53
  パブリックフォルダ 33
  必要な機能を確認する 24


索引

## こ

コメント 61
コンピュータ名 22

## さ

サーバ名 59

## し

受信手段 75

## ち

チェックシート 118

## て

電子メール
  受信する 94, 95
  送信機能を設定する 77
  送信する 90
電子メールアカウント 11, 95
電子メールアドレス 79
転送機能 74
転送先 75
転送条件 74, 75
転送条件名 75

## な

名前
  電子メール 85
  ファイルサーバ 65

## に

認証方式 10

## ね

ネットワーク環境 7
ネットワークケーブル 14
ネットワーク構成例 7
ネットワークコンポーネント 24, 26

## は

パスワード
  POP パスワード 95
  SMTP パスワード 13, 80
  ユーザのパスワード 39, 43, 65
  リモート UI 起動時のパスワード 20
パブリックフォルダ 33

## ふ

ファイアウォール 29, 104
ファイル形式 75
ファイルサーバ
  送信機能を設定する 57
  送信する 70
ファイルシステム 49
フォルダへのパス 65
プロトコル 65

## ほ

ホスト名 65
ホゾンシマシタ／ USB メモリヲ ヌクコトガデキ
  マス 100

## め

メール ID 95
メールアドレス 85

## ゆ

ユーザーアカウント制御 26, 41, 54
ユーザーアカウントの作成 (Windows Vista) 41
ユーザーアカウントの作成 (Windows XP) 37
ユーザ名
  SMTP サーバのユーザ名 13, 80
  アカウントのユーザ名 38, 42

## り

リモート UI
  起動方法 19
  使用する 18
  必要な環境 18

## わ

ワークグループ名 60

# チェックシート

本製品の IP アドレスや SEND Lite 機能の設定に必要な情報は、忘れないようにメモしておきましょう。

| | |
|---|---|
| **リモート UI** | |
| 本製品の IP アドレス<br>（→ P.17） | |
| **Scan to ファイルサーバ機能** | |
| コンピュータ名<br>Windows XP：（→ P.22）<br>Windows Vista：（→ P.23） | |
| 共有フォルダ名<br>Windows XP：（→ P.30、P.44）<br>Windows Vista：（→ P.36、P.53） | |
| ユーザ名<br>Windows XP：（→ P.38）<br>Windows Vista：（→ P.42） | |
| パスワード<br>Windows XP：（→ P.40）<br>Windows Vista：（→ P.43） | |
| **Scan to E-Mail 機能** | |
| SMTP サーバアドレス<br>（→ P.12） | |
| 認証方式<br>（→ P.10、P.13） | □POP before SMTP 認証<br>□SMTP 認証<br>・SMTP ユーザ名：<br>・SMTP パスワード：<br>* 認証方式が POP before SMTP の場合は、電子メール受信機能の設定が必要になります。電子メール受信機能の設定については、「電子メールを受信するには」（→ P.95）を参照してください。 |

本書は本文に再生紙を
使用しています。
本書は揮発性有機化合物(VOC)
ゼロのインキを使用しています。

## 消耗品のご注文先

| | |
|---|---|
| 販 売 先 | |
| 電話番号 | |
| 担当部門 | |
| 担 当 者 | |

## サービス担当者 連絡先

| | |
|---|---|
| 販 売 店 | |
| 電話番号 | |
| 担当部門 | |
| 担 当 者 | |

**キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社**

お客様相談センター
(全 国 共 通 番 号)

# 050-555-90024

[受付時間]　〈平日〉9:00〜20:00
〈土日祝祭日〉10:00〜17:00
(1/1〜3は休ませていただきます)

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9627 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**キヤノンマーケティングジャパン株式会社**　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

FT5-1532　(000)　xxxxxxxxxx
© CANON INC. 2007
PRINTED IN KOREA